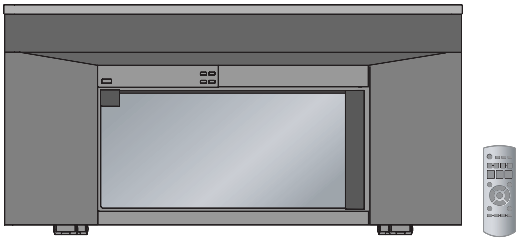
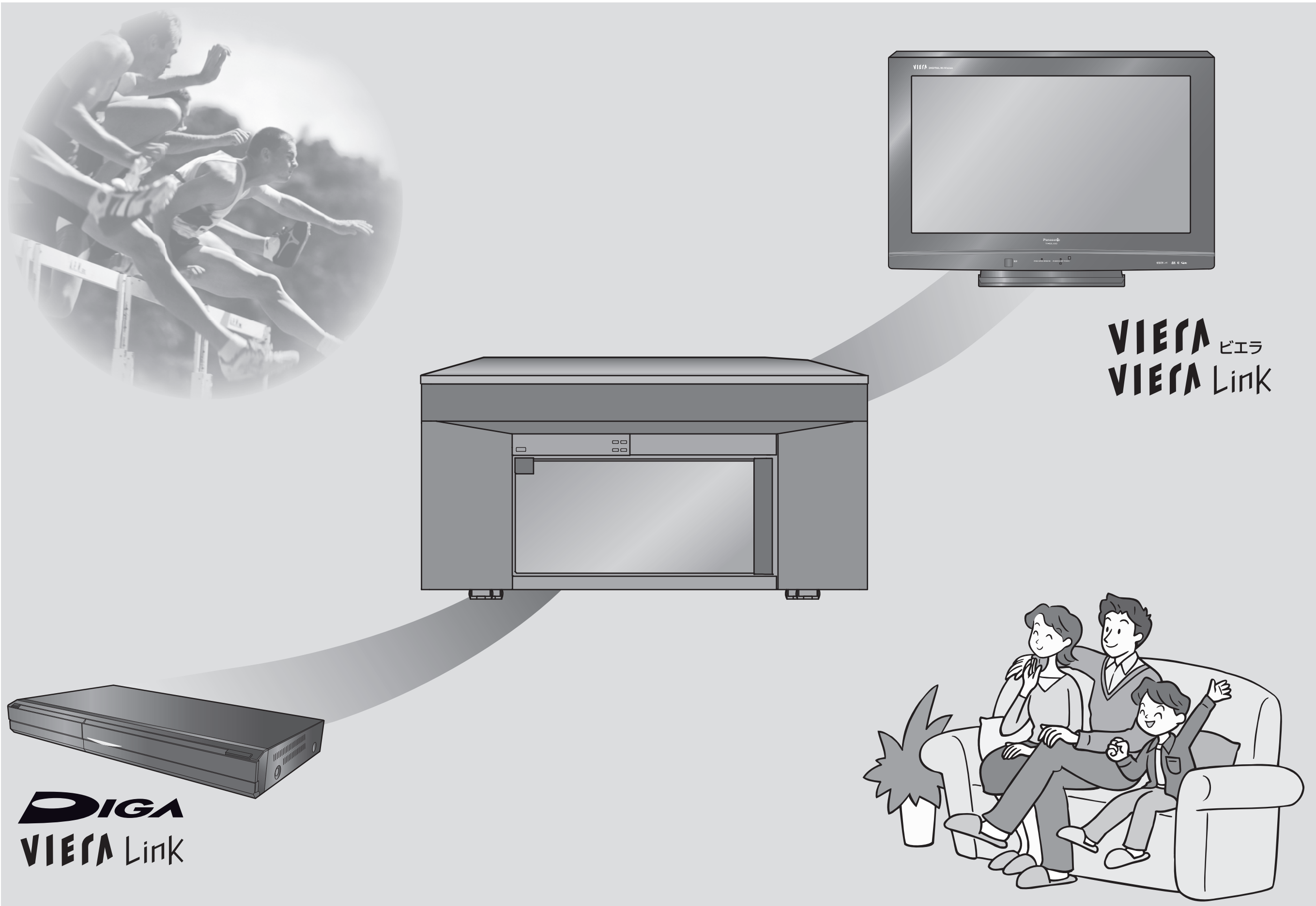
Panasonic



取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番　**SC-HTR110**



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

保証書別添付

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に**「安全上のご注意」（➜ 35 ～ 37 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

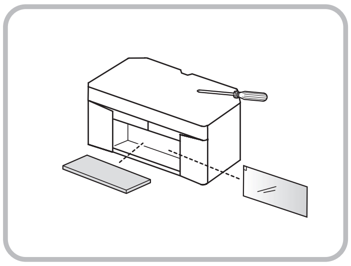
HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

ホームシアター完成までの流れ



ステップ 1 ラックを設置する（→ 8 ～ 12 ページ）

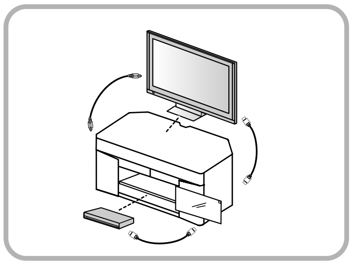
設置後、棚板、ガラス扉を取り付けます。



ステップ 2 テレビとレコーダーを接続する（→ 13 ページ）

（本システムには、テレビやレコーダーなどの各機器は含まれておりません。）

必要なケーブル
- **HDMI ケーブル：2 本（別売）**
- **光デジタルケーブル：1 本（別売）**



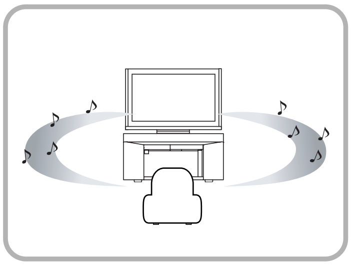
- HDMI ケーブルで接続すると、DVD などが高画質・高音質で楽しめます。
- HDMI 接続するには、テレビとレコーダーの両方に HDMI 端子が必要です。
- HDMI ケーブルの接続だけでは、本システムでテレビの音声を楽しむことができません。本システムでテレビの音声を楽しむ場合は、本システムとテレビを光デジタルケーブルで接続してください。
- テレビの推奨サイズ（ラックの耐荷重量）は 37V 型以下（80 kg 以下）です。

○○お知らせ○○
37V 型テレビは、横に少しはみ出します。

☞ HDMI 端子がない映像機器（テレビ、DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する場合は、14 ページをご覧ください。

ステップ 3 映画や音楽を楽しむ（→ 20 ～ 23 ページ）

DVD やテレビの音声をサラウンド効果で楽しむことができます。



■本システムにはスピーカーが内蔵されています。
フロントスピーカー、サブウーハーは、他のスピーカーを接続しないでください。他のスピーカーを使用すると、正しい特性の音が得られず、また故障の原因になります。

■SH-FX60（別売）を使用すると、ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続することができます。（➔ 18 ページ）

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。
(→35 ～ 37 ページ)

安全上のご注意

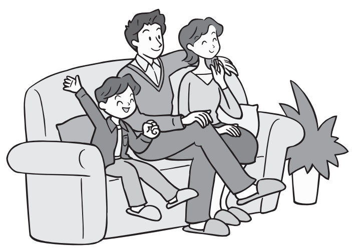
まず



準備



楽しむ

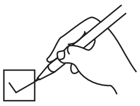


ご参考



まず
準備
楽しむ
ご参考

付属品

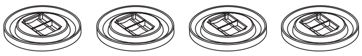


付属品をご確認ください。

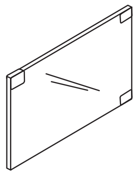
●●お願い●●
- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【 】内は、買い替え時の品番です。
  （品番は 2008 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。）
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。 また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 電源コードキャップ及び包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

ラックの付属品

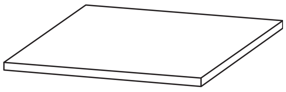
- □ キャスター座（4 個）【TBLB3008】



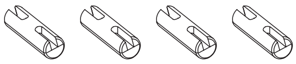
- □ ガラス扉（1 枚）【RXQ1615】



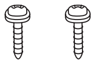
- □ 棚板（1 枚）【RKQ2G0006-K】



- □ 成形ダボ（4 個）【RMQ1649】

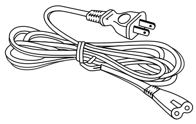


- □ ねじ（2 個）【XTW4+15AFJK】

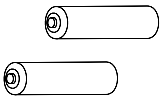


アンプ用の付属品

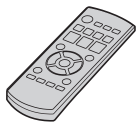
- □ 電源コード（1 本）【K2CA2CA00019】



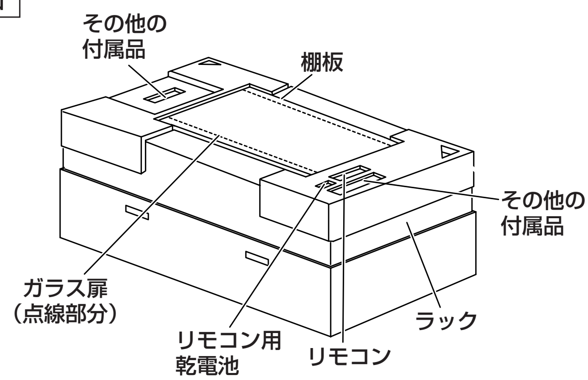
- □ リモコン用乾電池（単 3 形：2 個）



- □ リモコン（1 個）【N2QAYB000249】



包装仕様図



付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

Pana Sense

http://www.sense.panasonic.co.jp

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

“DTS” および “DTS Digital Surround” は DTS 社の登録商標です。

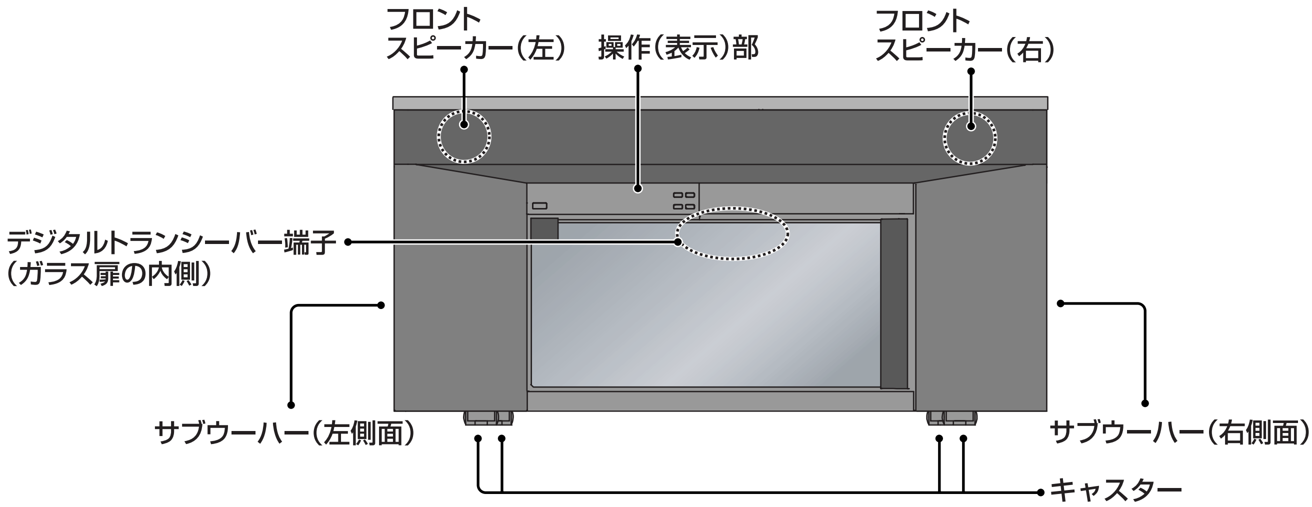
HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

HDAVI Control ™ は商標です。

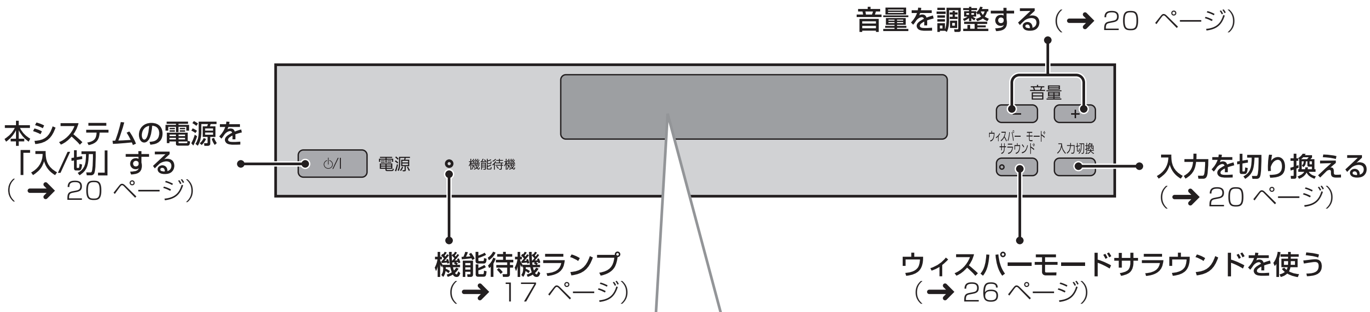
各部のはたらき

本体

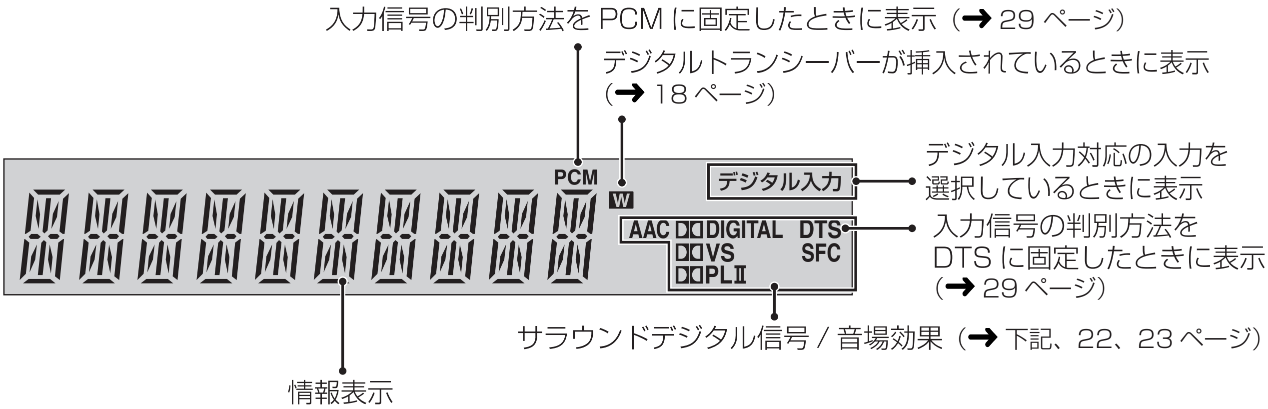
前面



操作部



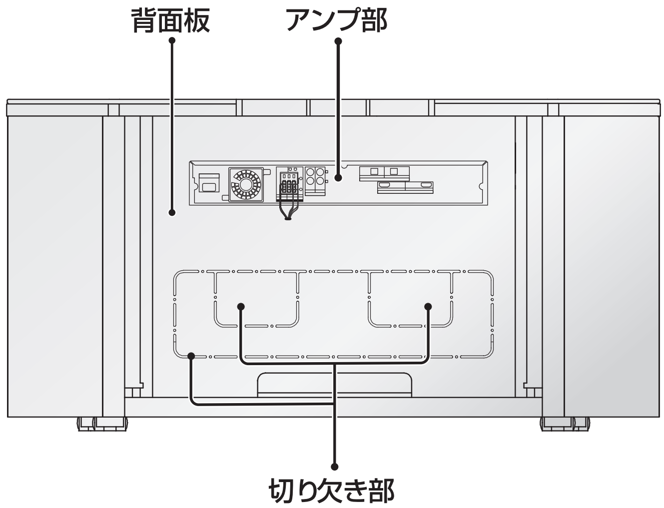
表示部



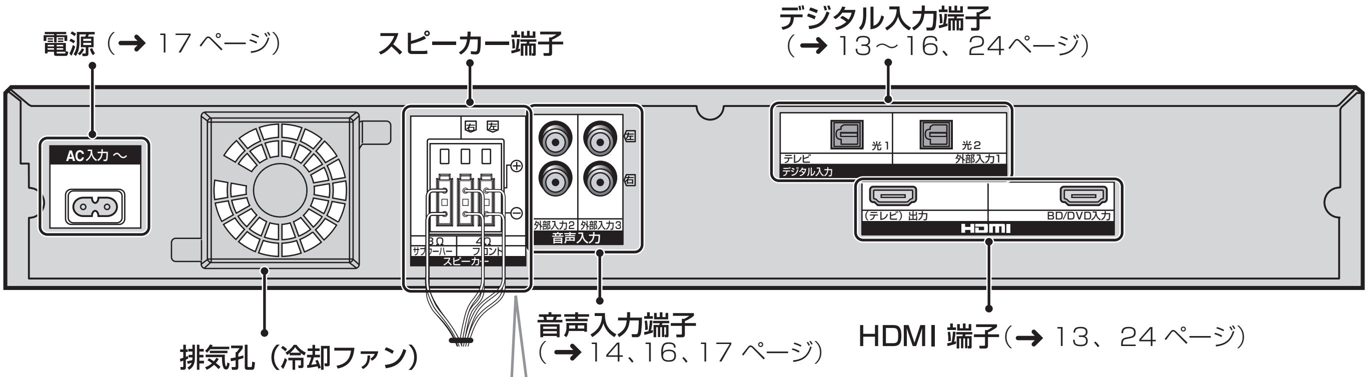
AAC	： AAC ソース（BS デジタル放送など）を再生しているとき	SFC	： SFC が働いているとき
DD DIGITAL	： ドルビーデジタルソースを再生しているとき	DD PL II	： ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき（2 チャンネルのステレオソースにドルビーバーチャルスピーカーを使用したとき）
DTS	： DTS ソースを再生しているとき		
DD VS	： ドルビーバーチャルスピーカーが働いているとき		

各部のはたらき（つづき）

後面



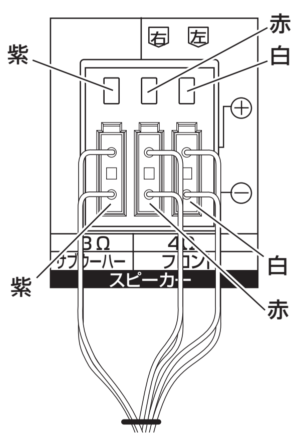
アンプ部



スピーカー端子について

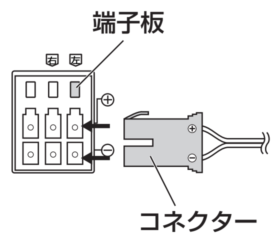
本システムでは、スピーカーはあらかじめ接続されています。特に必要がなければ、コネクターには触らないようにしてください。
コネクターが外れた場合などは、下図を参考に接続してください。

コネクター接続図

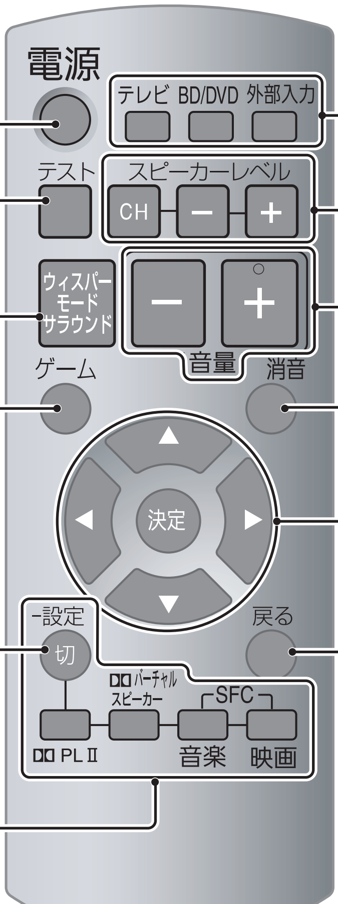


コネクターの付け方

コネクターの色と端子板の色を合わせて、まっすぐ奥まで差し込む。



リモコン



本システムの電源を「入 / 切」する（➔20、21 ページ）

テスト信号を出力する（➔ 19 ページ）

ウィスパーモードサラウンドを使う（➔26 ページ）

ゲームサウンドを使う（➔26 ページ）

設定の操作に入る（➔25 ～ 30 ページ）

ドルビーバーチャルスピーカー、ドルビープロロジックⅡ、SFC のモードを選択、「入 / 切」する（➔22、23 ページ）

入力を切り換える（➔20、21 ページ）

スピーカーの音量調整をする（➔19、26 ページ）

音量を調整する（➔19 ～ 21 ページ）

一時的に音を消す（➔26 ページ）

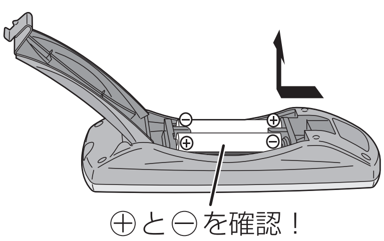
調整・設定をする / 設定を決定する（➔25 ～ 30 ページ）

設定項目を一つ前に戻す（➔25 ～ 30 ページ）

リモコンの準備

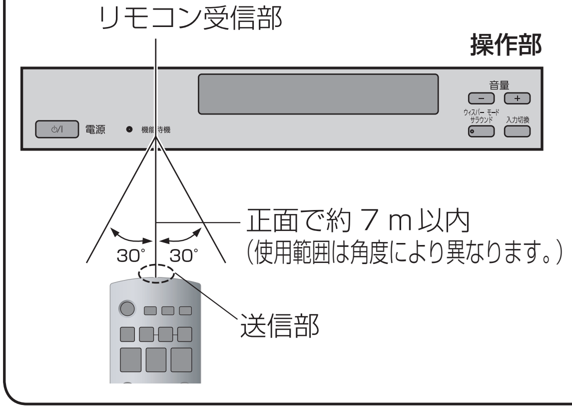
乾電池の入れかた

ふたのふちを押しながら開ける



⊕と⊖を確認！
（単 3 形）

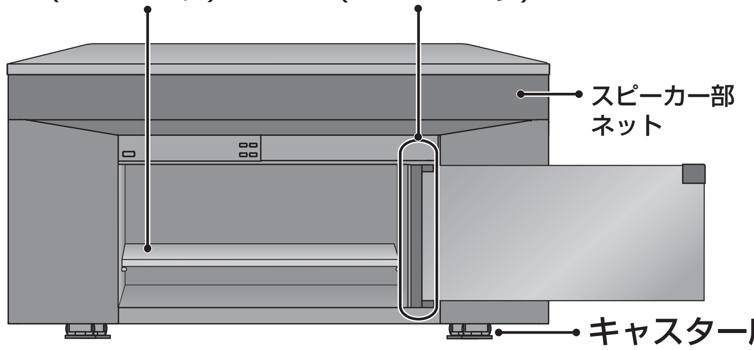
リモコンの使いかた



■**使用上のお願い**

- ●受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
- ●受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- ●受信部と送信部のほこりに注意。

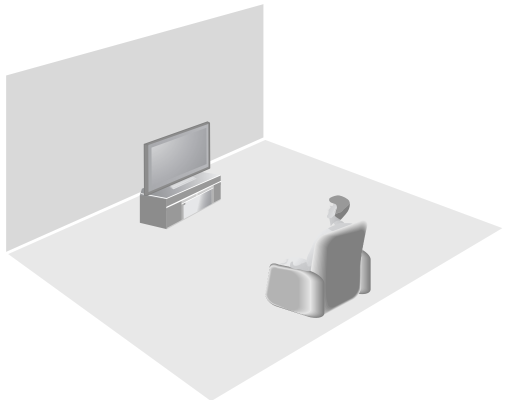
ラックの設置と取り付け

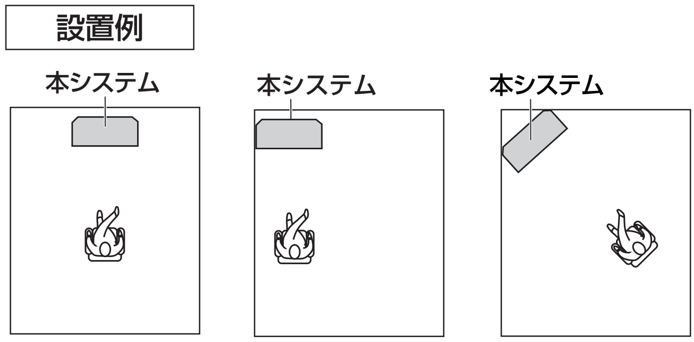


各機器の設置（ブルーレイディスクレコーダー/DVD レコーダー ➜ 10 ページ）
（テレビ ➜ 11ページ）

設置について

■ 設置作業は 2 人以上で行ってください。
■ プラスドライバーを用意してください。（電動ドライバーは使用しないでください。）
■ 不安定な場所を避けて、設置してください。
■ ガラス扉の取り扱いには、十分にご注意ください。

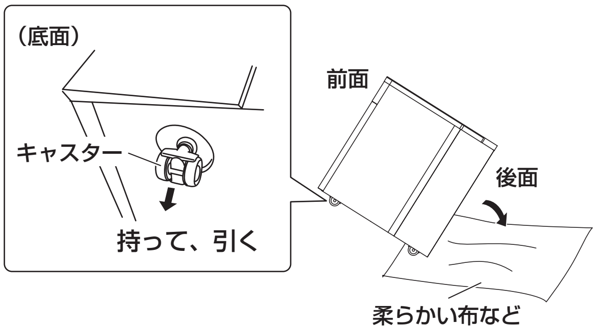




- 転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置し、テレビの転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。
- 本システムは、本システムの側面や後面を壁に付けて設置することもできます。ただし、ラックの取り付けや各機器の接続の際には、作業スペースが必要ですので、ご注意ください。
- 後面の排気孔をふさぐことになるので、カーテンなどの前には置かないようにしてください。
- 本システムを設置する際は、前面のスピーカー部のネットには、力を加えないようにしてください。
- フローリング床面が柔らかい場合、キャスターの回転跡が残る場合があります。
- キャスターを取り外す場合は、9 ページをご覧ください。

キャスターを取り外す場合

- 不安定な場所では、キャスターを外してください。
（畳や毛足の長いじゅうたんなど）
- キャスターを外す場合は、床に柔らかい布などを敷いて、後面側に倒してください。
- キャスターは、持って引くと外れます。
- キャスターの取り外しは、必ず２人以上で行ってください。
- キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず底板を持って、２人以上で行ってください。持ち上げ方については、下記をご覧ください。
- キャスター取り外し時は、ラックの上や中には何も置かないでください。

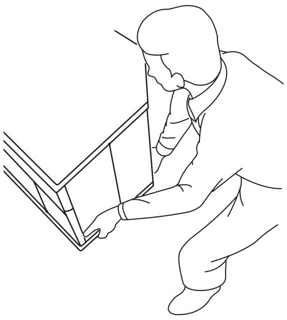


ラックの持ち上げ方

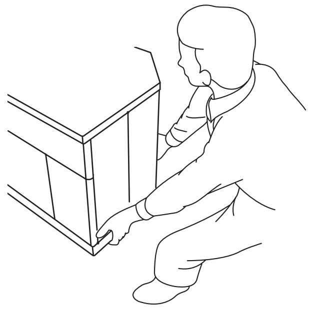
① 天板後面を持ち上げ、後面側の底に手を入れる



② 前面側の底に手を入れる

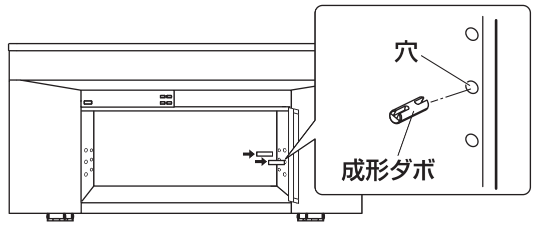


③ 左右の手で水平になるように持ち上げる

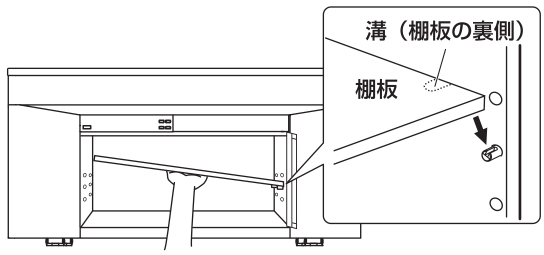


棚板の取り付け

1 片側のダボ穴に成形ダボ（付属）を差し込む。

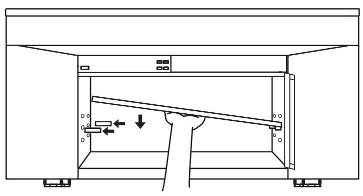


2 棚板（付属）を斜めにしながら差し込み、成形ダボの上に棚板の溝が合うように棚板を載せる。



3 棚板を支えながら、反対側のダボ穴に成形ダボを差し込み、棚板が水平になるように設置する。

- 棚板の高さは、３段階に調整できます。
- 成形ダボを差し込む穴を変えて、棚板の高さを調整してください。
- 棚板を設置しない場合でも、成形ダボは無くさないように差し込んでおいてください。



（棚板設置位置ごとの収納機器対応表）　単位 (mm)

設置場所		底板			棚板		
棚板位置		下段	中段	上段	下段	中段	上段
収納部高さ		39.4	69.4	99.4	163	133	103
収納可能製品奥行き	314 ～ 345	×	×	×	×	△1※	△2※
	255 ～ 313	×	×	×	×	○※	○※
	254 以下	○	○	○	○	○	○
	収納部幅	470			470		
	収納部奥行き	301			313		

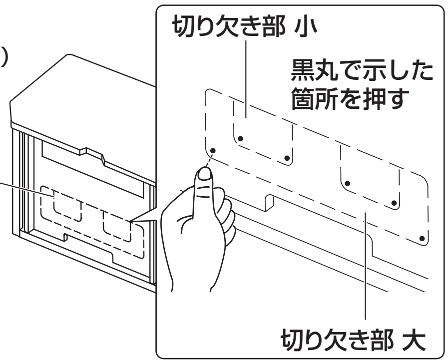
※印の箇所で設置の場合、切り欠き部「大」を開けてください。
△1: 幅 430 mm、高さ 96 mm 以下の製品は設置可
△2: 幅 430 mm、高さ 66 mm 以下の製品は設置可

ラックの設置と取り付け（つづき）

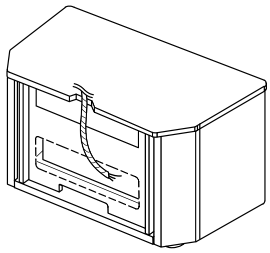
ブルーレイディスクレコーダー /DVD レコーダーなど収納する機器の設置（各機器の取扱説明書もご覧ください。）

1 機器を設置した後、配線のため背面板の切り欠き部を、親指の腹などで強く押さえて、取り外す。

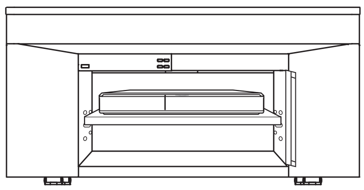
- 本システムと各機器の接続については、13 ～ 17 ページをご覧ください。
- 設置する機器の取扱説明書に放熱や通風に関する要求事項が記載されている場合には、背面板の切り欠き部を取り外して、通気を確保してください。
- 側面に排気孔を持つ機器を設置する場合は、機器の取扱説明書に記載された指示に従い、設置してください。



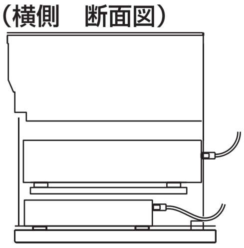
2 収納した機器のコードを、切り欠き部から束ねて引き出し、接続する。



前面



（横側　断面図）



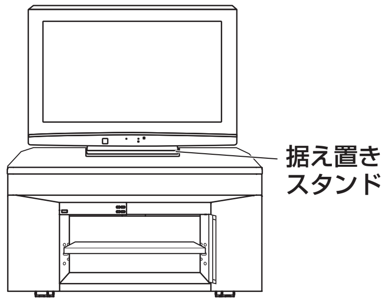
お知らせ

- 棚板には 12 kg、底板には 20 kg を超える機器を設置しないでください。
- 録画機器を上段に載せると、映像に障害が出る場合があります。その場合は、棚板の下段に設置してください。
- 収納する機器によっては、機器のコードが接続できない場合があります。ケーブルが出る位置に棚板の高さを調整し、機器を収納してください。
- 最下段（底板上）に設置した場合、奥行きの長い機器が正しく設置されないことや収納した機器のコードが接続できないことがあります。
- **９ページの「棚板設置位置ごとの収納機器対応表」で※印の条件の場合**
  壁際などに設置し、背面部の結線部分が壁面に触れ、線材や機器に負担が加わり、故障や動作不良の原因になる場合があります。壁などより離して設置してください。ラック移動の際には配線材に負担が加わらない状態にご注意ください。

テレビの設置（テレビの取扱説明書もご覧ください。）

推奨サイズ　37V 型以下

テレビ（据え置きスタンド付き）をラックの中央に設置する。

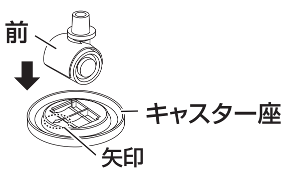


お知らせ
- テレビは持ち上げて移動してください。引きずると天板を傷つけることがあります。
（持ち方については、テレビの取扱説明書をご覧ください。）
- 37V 型テレビは横に少しはみ出します。
- 回転式のテレビスタンドの場合は、回転してもラック前面よりはみ出さないように設置してください。

キャスター座を敷く

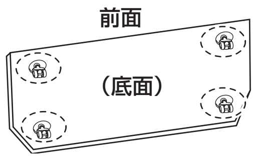
本システムが動かないように、キャスターの下にキャスター座を敷いて、固定する。

- キャスター座を置くときは、下図のようにキャスターの前方向とキャスター座の矢印を合わせてください。



- キャスター座を取り外すときは、ラックを持ち上げてください。ラックの持ち上げ方については 9 ページをご覧ください。

（キャスター座位置）
下図の点線で囲んだ４箇所のキャスターの下にキャスター座を敷きます。

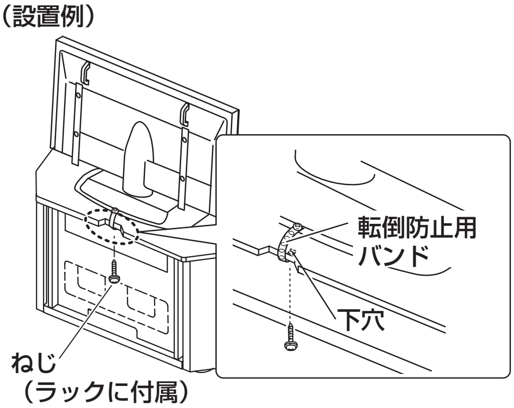


転倒防止について

テレビが転倒しないように、テレビを固定する。

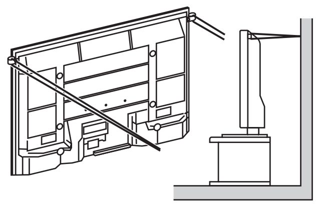
■ラックに固定する場合
- 同封のねじで、テレビに付属の転倒防止用バンドなどを右図のように取り付けてください。（転倒防止用バンドがテレビに付属していない場合には、市販のバンドで固定してください。）
転倒防止用バンドは、ラック天板裏側中央の下穴に取り付けてください。
適当な位置に下穴がない場合は、裏側に直径 2 mm 程度の下穴を開けてから、ねじで取り付けてください。
- 強く締めすぎると、空回りして固定できなくなります。

（設置例）



■壁面に固定する場合
- 壁や柱の材質に適した市販のねじ、丈夫なひも、または鎖などを使用して堅牢部にしっかりと取り付けてください。
- 壁や柱にはテレビの重量を支えられる強度が必要です。詳しくは、施工者の方などにご相談ください。
- 固定は、左右 2 箇所で行ってください。

（設置例）

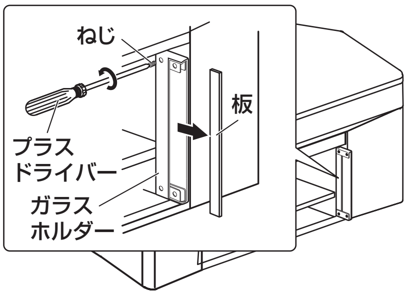


イラストはイメージです。
実際の商品と形状が異なる場合があります。

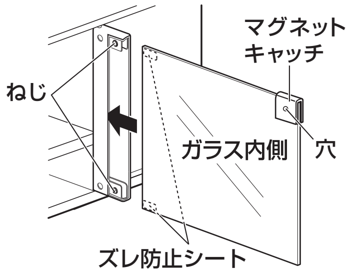
ラックの設置と取り付け（つづき）

ガラス扉の取り付け

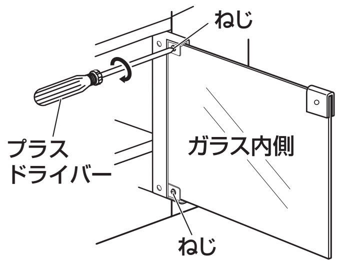
1 **ガラスホルダーの４箇所のねじをプラスドライバーで取り外し、板を取り出す。**
- 板を取り出す前に、ガラスホルダーを固定しているテープを外してください。
- プラスドライバーは、ねじの大きさに合ったサイズをご使用ください。



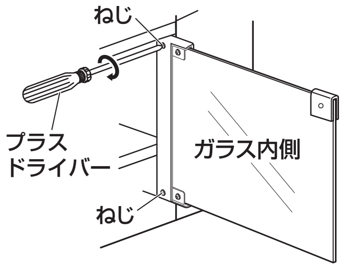
2 **ガラス扉（付属）をガラスホルダーの奥まで挿入し、手前の２箇所のねじを仮留めする。**
- マグネットキャッチに穴が空いている方がガラス内側になります。
- ガラス扉表面のガラスホルダー挿入部には、ズレ防止シートを貼付しています。
  そのままの状態で取り付けてください。



3 **ガラス扉を閉めて高さやすき間を調整し、ガラス扉がずれないように開き、手前の２箇所のねじをプラスドライバーでしっかり締める。**

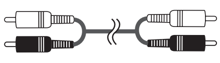


4 **奥のねじ２箇所をしっかり締める。**



別売品のご紹介

コード/ケーブル名	長さ	品　番
HDMIケーブル 	(1.0 m) (1.5 m) (2.0 m) (3.0 m)	RP-CDHG10 RP-CDHG15 RP-CDHG20 RP-CDHG30
光デジタルケーブル 	(0.5 m) (1.0 m) (1.5 m) (2.0 m) (3.0 m)	RP-CA2005 RP-CA2010 RP-CA2015 RP-CA2020 RP-CA2030

コード/ケーブル名	長さ	品　番
ステレオピンコード 	(0.5 m) (1.0 m) (1.5 m) (2.0 m) (3.0 m) (5.0 m) (10.0 m)	RP-CAP3G05 RP-CAP3G10 RP-CAP3G15 RP-CAP3G20 RP-CAP3G30 RP-CAP3G50 RP-CAP3G100

ケーブル類は、置き方や接続方法などにより、必要な長さが異なります。ご購入の際は、長さを十分確認してください。

別売品の品番は、2008年２月現在のものです。品番は変更されることがあります。

◯◯お知らせ◯◯

接続するケーブル端子の形状によっては、以下の点にご注意ください。
- 本システムを壁に付けて設置する場合は、十分確認のうえ、設置してください。
- 接続した機器を収納する場合、ケーブルが後面に当たり、正しく収納されないことがあります。背面板の切り欠き部を取り外すなどしてください。

（特にイコライザー付きHDMIケーブルは、プラグの形状が大きいため、注意が必要です。）

接続する

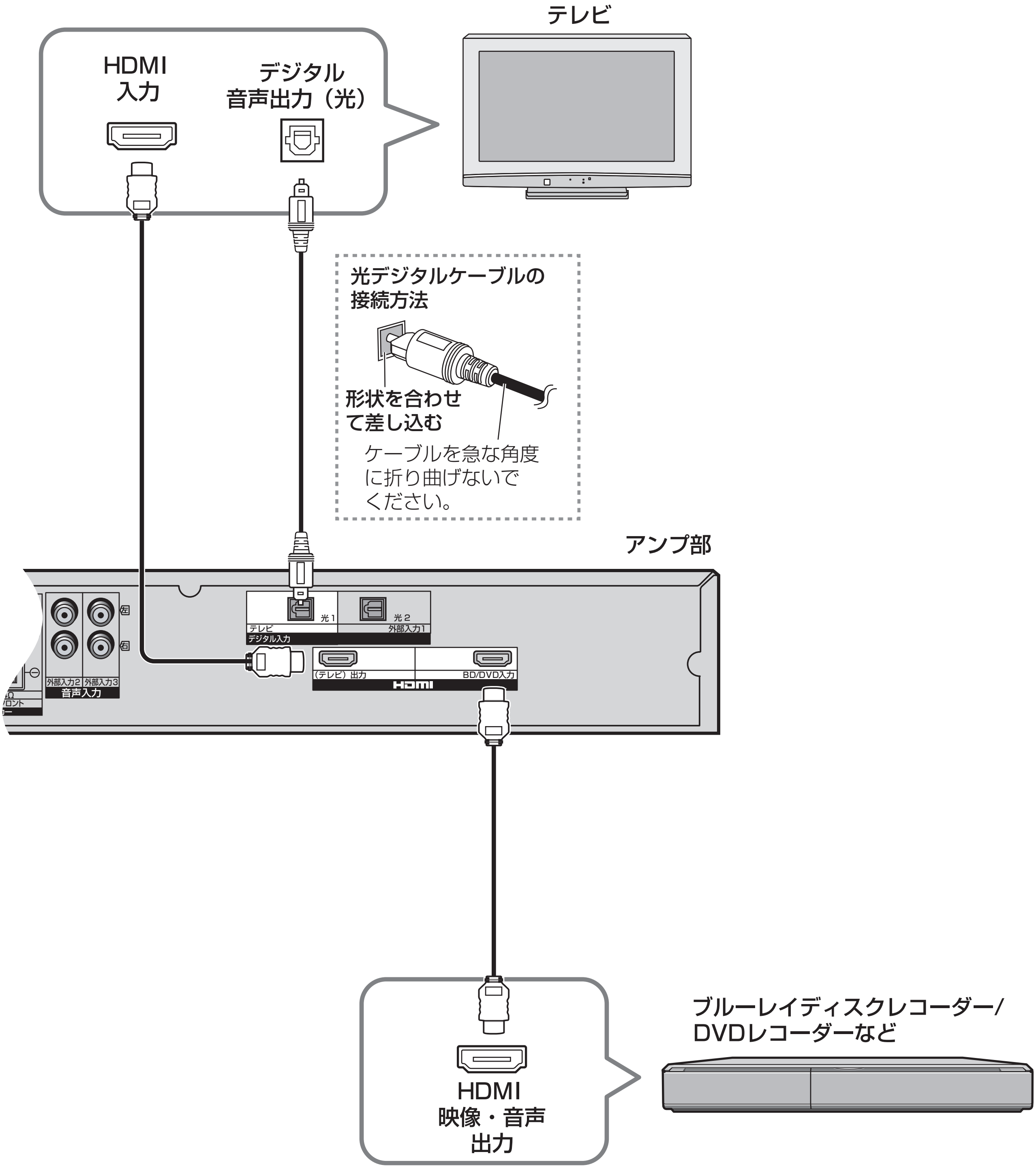
●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

HDMI 端子のある機器（テレビ、レコーダーなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」(➜ 12 ページ）を参照してください。)

HDMI ケーブル（別売）	光デジタルケーブル（別売）
	角型 

HDMI ケーブルについて
- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。



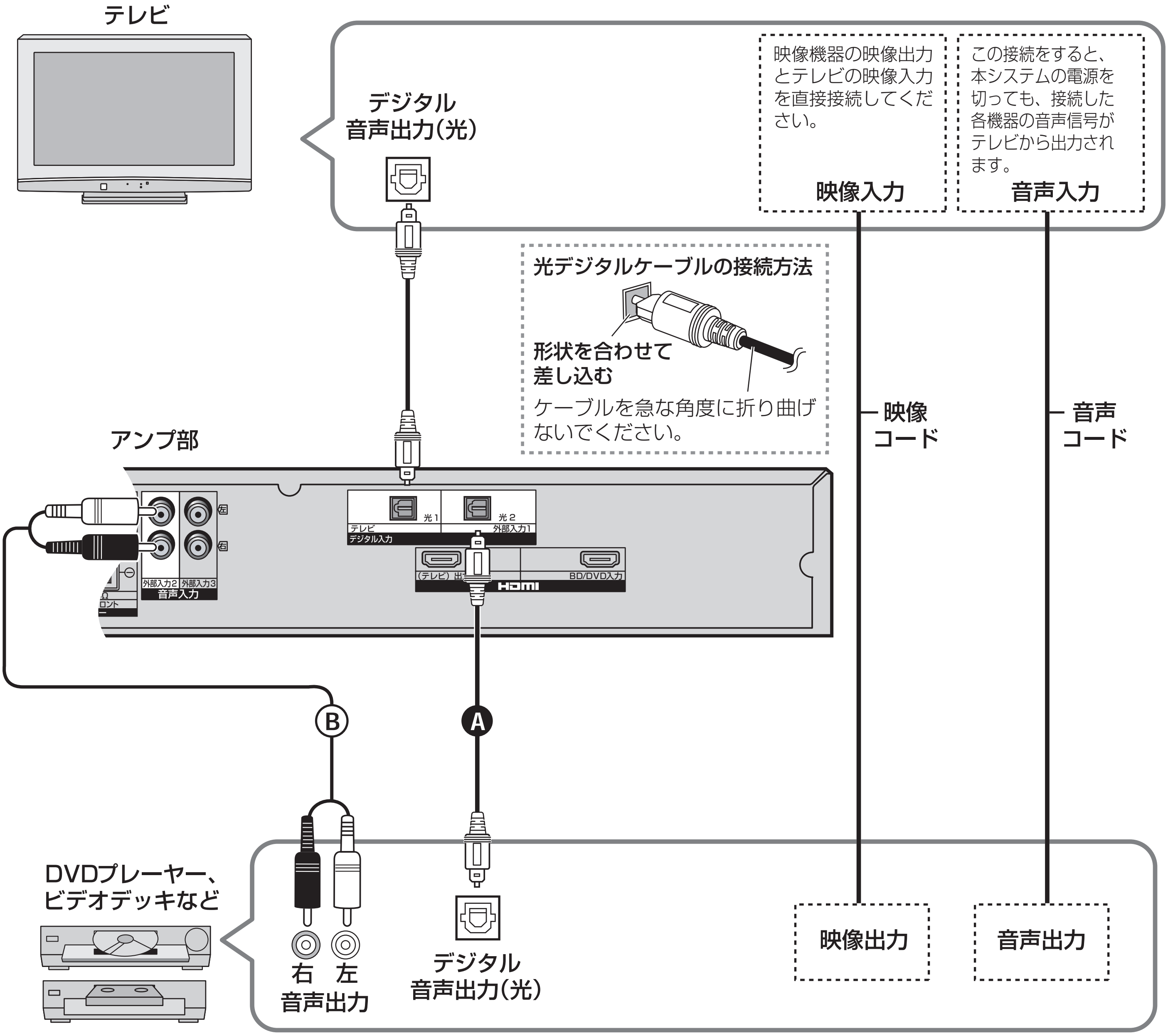
接続する（つづき）

HDMI 端子がない機器（DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 12 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）	ステレオピンコード（別売）
角型 	

※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



お持ちの機器やお好みに合わせて、Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

CATV セットトップボックス、BS デジタルチューナー、CS チューナーなどを接続する

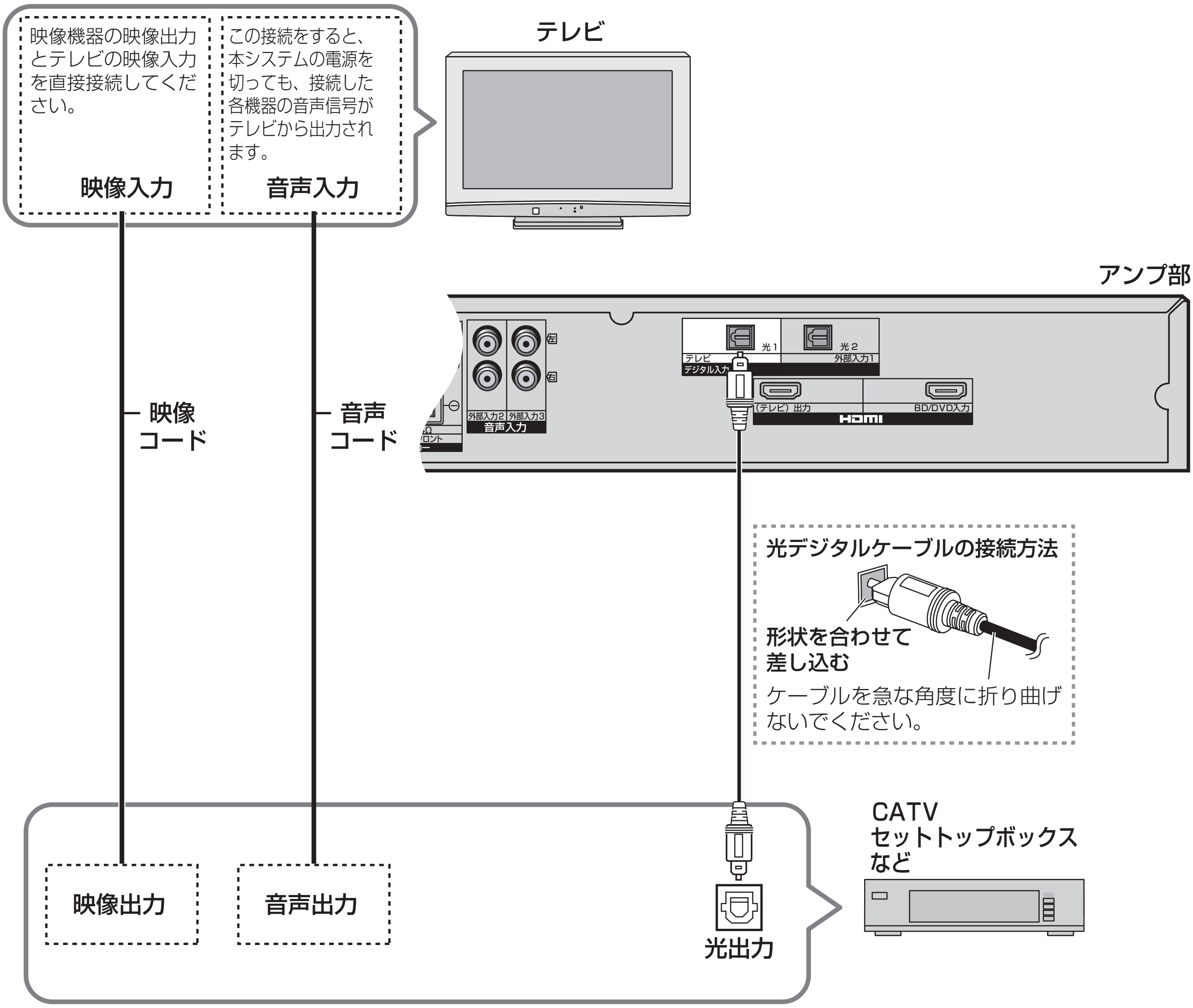
テレビ用の入力端子を使って接続します。

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 12 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）

角型 

※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



準備

接続する（つづき）

接続する（つづき）

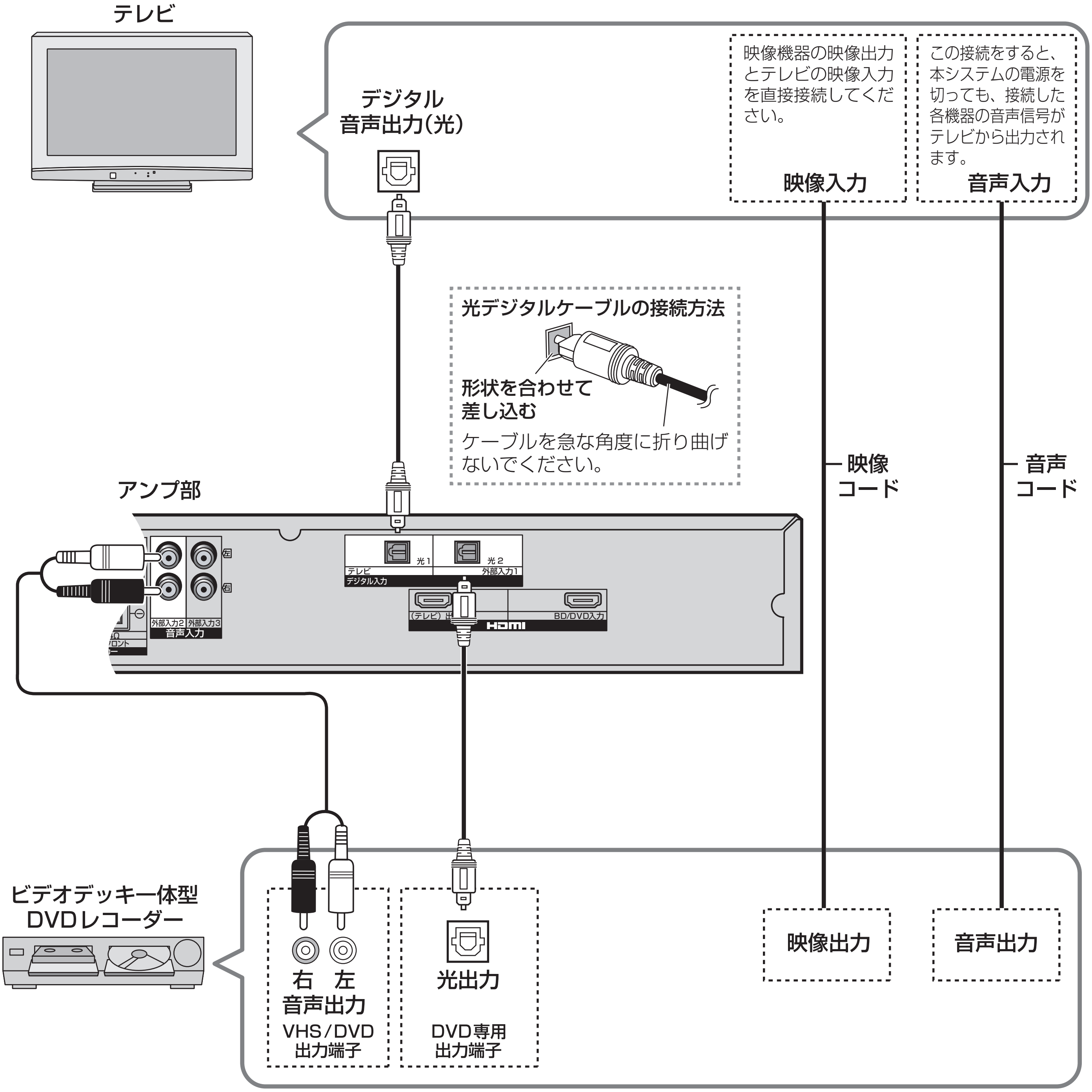
ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する

DVD/ＶＨＳ専用端子がある場合の接続です。

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 12 ページ）を参照してください。）

光デジタルケーブル（別売）	ステレオピンコード（別売）
角型 	

※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



◯◯お知らせ◯◯

再生については、21 ページをご覧ください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

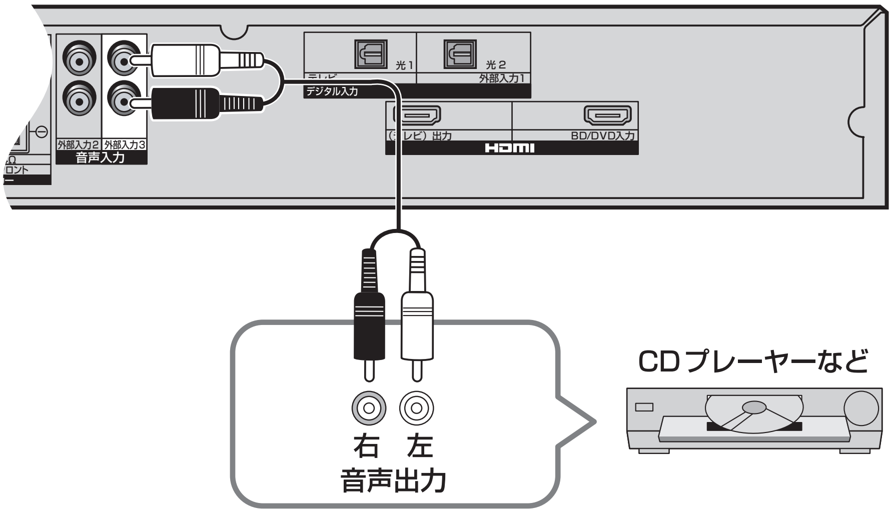
オーディオ機器（CD プレーヤーなど）を接続する

使用するケーブル（別売品の品番は、「別売品のご紹介」（➜ 12 ページ）を参照してください。）

ステレオピンコード（別売）



アンプ部

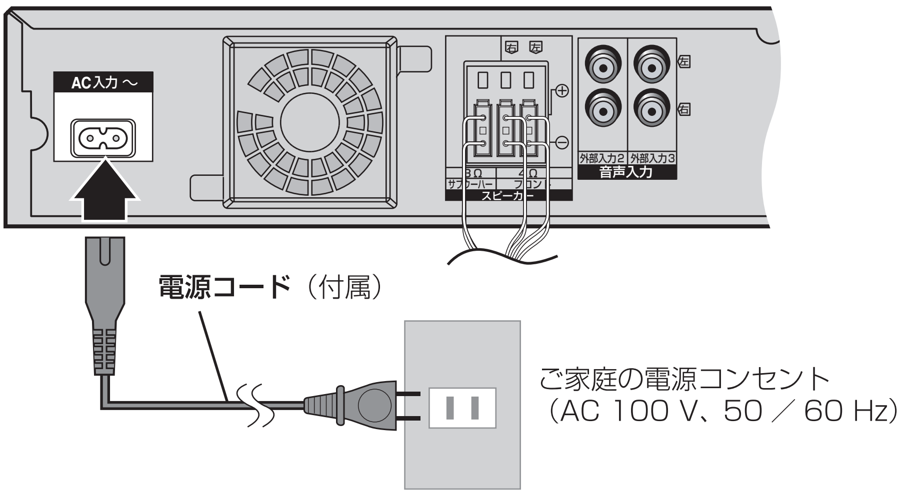


電源コードの接続

電源コードは必ず最後に接続してください。

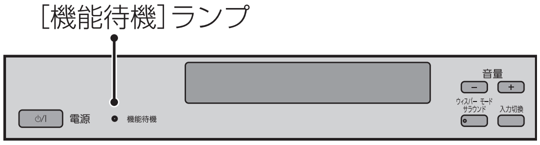
電源プラグをコンセントに接続した状態で 約 0.6 W（省待機電力モード時（➜ 28 ページ）は約 0.2 W）の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。

アンプ部



[機能待機] ランプについて

[機能待機] ランプ

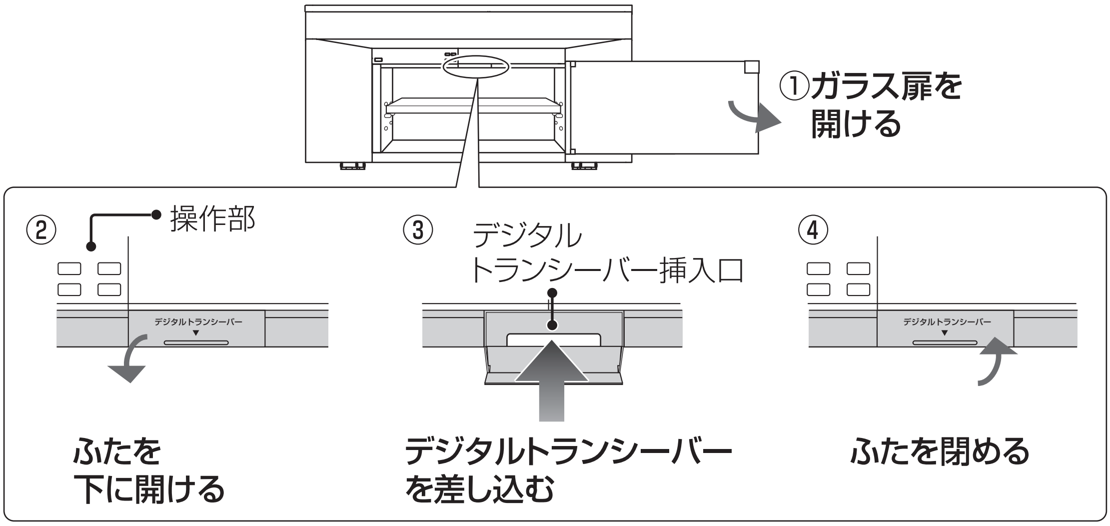


電源コードを接続すると、電源「切」のときに
[機能待機] ランプが点灯（赤色）します。
電源を「入」にすると消灯します。

ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続する

本システムでは、当社製 SH-FX60（デジタルトランシーバーとワイヤレスシステムのセット：別売）を使用して、左右サラウンドスピーカーをワイヤレスで接続することができます。
本システムのデジタルトランシーバー端子にデジタルトランシーバーを差し込み、サラウンドスピーカーを SH-FX60 ワイヤレスシステムに接続します。詳しくは、SH-FX60 の取扱説明書をご覧ください。
ワイヤレスサラウンドスピーカーを接続している場合の音場効果については、23 ページをご覧ください。

- **接続するときは、本システムの電源を切ってください。**
- 接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

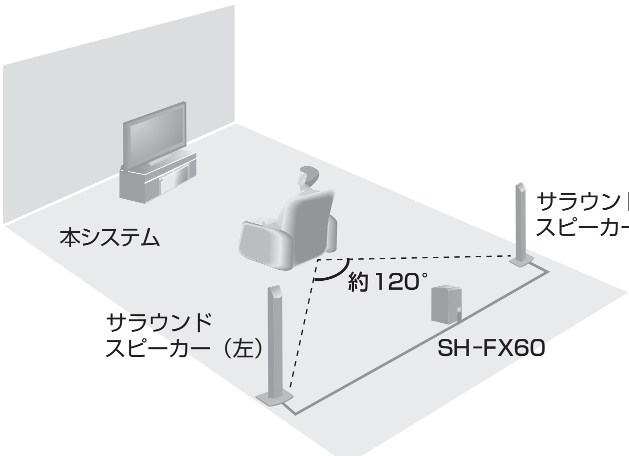


お知らせ
ふたは約 90°開きます。無理な力を加えないでください。

サラウンドスピーカーの配置

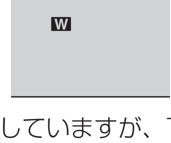
サラウンドスピーカー（左、右）: 視聴位置のやや後方の左右に設置してください。

設置例
スピーカーシステム SB-HS500A（別売）を接続した場合



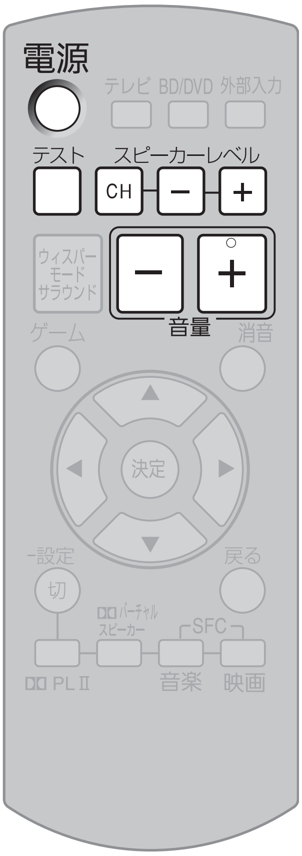
お知らせ
各スピーカーから視聴位置までの距離を設定してください。（➔ 27 ページ）それにより、視聴位置に届く音の遅延時間を補正することができます。

デジタルトランシーバーの挿入後、電源を「入」にすると（➔ 21 ページ）、デジタルトランシーバーが検出され、表示部に“W”が点灯します。
（検出動作中は点滅し、検出されると点灯になります。）



デジタルトランシーバーを挿入している間は“W”が点灯していますが、下記のような場合は、消灯または点滅します。
消灯： 再生モードがステレオ（2 チャンネル）の場合や、地上波デジタル放送などの音声多重放送を受信したときなど、ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用したサラウンド再生ができないとき
点滅： 電波が途切れているとき (SH-FX60 の電源が切れているとき)

スピーカーの音を確認・調整する



テスト信号で音声の出力を確認する

1. 電源 **押して、本システムの電源を入れる**

2. テスト **押して、音声出力を確認する**

TEST L

スピーカー表示

3. 音量 − + **押して、フロントスピーカーを通常聞く音量にする**

VOLUME 32

- 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。
  L（フロント左）→ ***R***（フロント右）→ ***SUBW***（サブウーハー）

☞ **ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合**（➜ 18 ページ）

- 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。
  L → ***R*** → ***RS***（ワイヤレスサラウンド右）→ ***LS***（ワイヤレスサラウンド左）→ ***SUBW***

4. テスト **押して、テスト信号を止める**

お知らせ

スピーカーからテスト信号が出力されない場合は、コネクターの接続を確認してください。（➜ 6 ページ）

スピーカーの音量を調整する

サブウーハー、ワイヤレスサラウンドスピーカー（接続時のみ ➜ 18 ページ）の音量がフロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じた場合、スピーカーの音量調整をします。

1. テスト信号を出力する（➜ 上記　手順 1 ～ 3）

2. CH **押して、調整したいスピーカーを選ぶ**

SUBW 15

SUBW（サブウーハー）

☞ **ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合**（➜ 18 ページ）

SUBW（サブウーハー）→ ***RS***（ワイヤレスサラウンド右）→ ***LS***（ワイヤレスサラウンド左）

3. スピーカーレベル − + **押して、各スピーカーの音量を調整する**

SUBW 10

調整範囲：
SUBW:　***OFF、MIN、1 ～ 19、MAX***
RS, LS: − 10 ～ + 10

- 調整しているスピーカーからのみテスト信号が出力されます。
- 操作後、約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

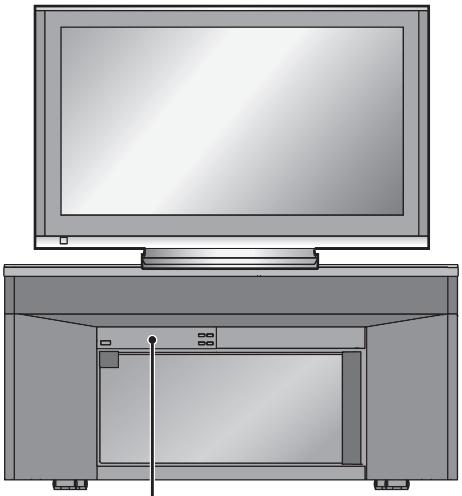
4. テスト **押して、テスト信号を止める**

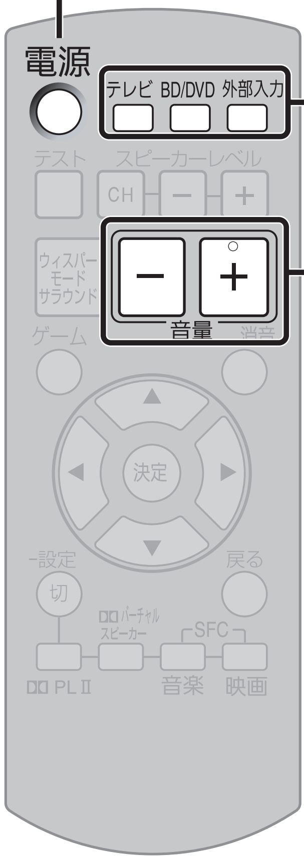
お知らせ

- フロントスピーカーの音量調整は「音量−、+」でします。左右フロントスピーカーの音量バランス調整は「音量バランスの調整をする」（➜ 27 ページ）を参照してください。
- サブウーハーの調整で ***"OFF"*** を選ぶと、サブウーハーから音が出ません。
- この調整で各チャンネルのレベルを調整しても、SFC の各モードの各チャンネルのレベル設定は変化しません。
- この調整をすると、ドルビーバーチャルスピーカーが働きます。2 チャンネルソースを再生している場合は、連動してドルビープロロジックⅡも働きます。（➜ 22、23 ページ）
- 映画や音楽を再生しながらスピーカーレベルを調整することもできます。（➜ 26 ページ）

映画や音楽を楽しむ

準備 テレビの電源を入れ、テレビのリモコンで本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。





本体で操作する場合



1 本システムの電源を入れる

⏻/I 電源 押す

2 再生したい機器の入力を選ぶ

入力切換 押す （入力は押すごとに切り換わります。）

TV	：テレビ
BD/DVD（初期設定）	：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1	：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2	：外部入力 2 端子に接続した機器
AUX 3	：外部入力 3 端子に接続した機器

3 機器を再生する

4 音量を調整する

音量 − ＋ 押す

■本システムで再生できるデジタル信号については 33 ページをご覧ください。

1



本システムの電源を入れる

押す

2



再生したい機器の入力を選ぶ

押す



（初期設定）

TV	：テレビ
BD/DVD	：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1	：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2	：外部入力 2 端子に接続した機器
AUX 3	：外部入力 3 端子に接続した機器

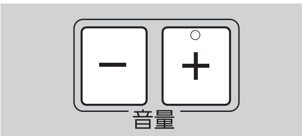
■ “***AUX 1***”、“***AUX 2***”、“***AUX 3***”は［外部入力］を押すごとに切り換わります。

3

機器を再生する

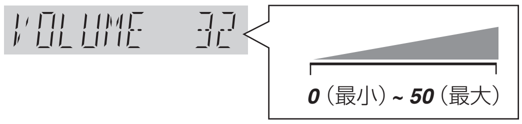
■ いろいろなサラウンド効果を楽しむことができます。（➜ 22、23 ページ）

4



音量を調整する

押す



0（最小）~ ***50***（最大）

■ 再生を楽しんだ後は、音量を下げてから［電源］を押して電源を切ってください。

お知らせ

- 再生するソースによっては、サブウーハーなどの音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもスピーカーの音量調整ができます。（➜ 26 ページ）
- “***BD/DVD***” 以外に入力を切り換えても、BD/DVD 端子に接続した機器の映像（または音声）は、テレビ出力端子から出力されます。

本システムの電源「切」時にレコーダーの映像・音声を楽しむ

- テレビとレコーダーなどの映像機器を本システムと HDMI 接続している場合（➜ 13 ページ）、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送されます。**（スタンバイスルー機能）**テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。
- x.v.Color（➜ 34 ページ）で記録された映像にも対応しています。

お知らせ

電源を切る前に入力を“***BD/DVD***” 以外に設定していても、本システムの電源を切ると、本システムの BD/DVD 端子に接続したレコーダーの映像 / 音声信号がテレビから出力されます。（再度、本システムの電源を入れると、設定していた入力に戻ります。）

ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを再生する

DVD/VHS 専用出力端子がある機器の場合は、上記操作 2 で入力を以下のように選んでください。

- DVD を楽しむとき：“***AUX 1***” に合わせる
- ビデオを楽しむとき：“***AUX 2***” に合わせる

いろいろな音場効果を楽しむ

音場効果は入力ソースによって異なります。実際の音をお聞きのうえ、お好みのモードを選んでください。

ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続していない場合

■ドルビーバーチャルスピーカー

5．1チャンネルで聞いているようなサラウンド効果が楽しめます。（ビデオやCDなどのステレオソースには同時にドルビープロロジックⅡが働きます。）ドルビーバーチャルスピーカーには、以下のモードがあります。

***REFERENCE*（標準モード）**	標準的な効果が得られるモードです。
***WIDE*（ワイドモード）**	左右の音場を更に広くするモードです。

■ SFC（Sound Field Control）

（サウンドフィールドコントロール）

ドルビーデジタル、DTS、AAC、ステレオソース（ビデオやCDなど）に臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。SFCには、以下のモードがあります。

音楽		映画	
***LIVE*（ライブ）**	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。	***DRAMA*（ドラマ）**	セリフがメインになるようなドラマに適した効果。
***POP/ROCK*（ポップ / ロック）**	ポピュラーやロック音楽に適した効果。	***ACTION*（アクション）**	迫力のあるアクション映画に適した効果。
***VOCAL*（ボーカル）**	ボーカルの声を際立たせる効果。	***SPORTS*（スポーツ）**	スポーツ観戦しているような臨場感。
***JAZZ*（ジャズ）**	ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。	***MUSICAL*（ミュージカル）**	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
***DANCE*（ダンス）**	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。	***GAME*（ゲーム）**	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。
		***MONO*（モノラル）**	昔のモノラル音声の映画などに適した効果。



ドルビーバーチャルスピーカーを使う

DD バーチャルスピーカー

押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➔ 上記）



SFC（Sound Field Control）を使う

（サウンドフィールドコントロール）

ドルビーバーチャルスピーカー（➔ 上記）の効果に、さらにお好みのサラウンド効果を加えて楽しめます。

SFC
音楽　映画

押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➔ 上記）



☞ **SFCの効果を解除する**
[DD バーチャルスピーカー] を押す

音場効果を切る

-設定
切

押す

● CDやテレビなどの2チャンネルソースはサラウンド効果がない状態になります。
● 入力ソースがドルビーデジタルやDTSなどのサラウンドデジタル信号やマルチチャンネルLPCM信号は、信号を2.1チャンネルに集約し、左右フロントスピーカー、サブウーハーから出力します。

◯◯お知らせ◯◯

● サラウンドデジタル信号 / 音場効果の表示については、5ページをご覧ください。
● 入力ソースが2チャンネルの場合、[DD PLⅡ] を押すと、連動してドルビーバーチャルスピーカーが働きます。
● マルチチャンネルLPCM信号には、SFCは使用できません。
● PCMのサンプリング周波数が48 kHzを超えるソースには、ドルビーバーチャルスピーカー、SFCは使用できません。入力されると自動的に解除されます。その後、他のソースを再生して効果を使用するには、再び [DD バーチャルスピーカー] や [SFC 音楽、映画] を押して選んでください。
● SFCの"***GAME***"モード（➔ 上記）は、リモコンの [ゲーム] を押すことでも選べます。（➔ 26ページ）
● 音場効果を「切」にした場合、入力ソースの変更、電源の「入／切」、入力の切り換えの操作で、音場効果を切る前の状態に戻ります。

ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続している場合

■ 4.1 CH DOWN MIX

多チャンネルソースを左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカー、サブウーハーに分配して出力します。特に、7.1 チャンネル LPCM 信号を再生すると、さらにスピーカーを追加したようなより広がりのある音場効果が楽しめます。

● 7.1 チャンネル LPCM 信号が入ってきたときには、しばらくの間下記のように表示されます。

7.1 LPCM

■ SFC (Sound Field Control)

ドルビーデジタル、DTS、AAC、ステレオソース（ビデオや CD など）に臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。SFC には、以下のモードがあります。

音楽		映画	
LIVE（ライブ）	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。	***DRAMA***（ドラマ）	セリフがメインになるようなドラマに適した効果。
POP/ROCK（ポップ / ロック）	ポピュラーやロック音楽に適した効果。	***ACTION***（アクション）	迫力のあるアクション映画に適した効果。
VOCAL（ボーカル）	ボーカルの声を際立たせる効果。	***SPORTS***（スポーツ）	スポーツ観戦しているような臨場感。
JAZZ（ジャズ）	ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。	***MUSICAL***（ミュージカル）	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
DANCE（ダンス）	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。	***GAME***（ゲーム）	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。
		MONO（モノラル）	昔のモノラル音声の映画などに適した効果。

■ドルビープロロジックⅡ

CD などの 2 チャンネルソースをサラウンドで楽しむことができます。



SFC (Sound Field Control) を使う

SFC［音楽］［映画］ 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➔ 上記）

LIVE SFC

☞ SFC の効果を解除する
［－設定、切］を押す

ドルビープロロジックⅡを使う

［PL Ⅱ］ 押す

音場効果を切る

-設定［切］ 押す

CD やテレビなどの 2 チャンネルソースはサラウンド効果がない状態になります。

お知らせ

- サラウンドデジタル信号 / 音場効果の表示については、5 ページをご覧ください。
- マルチチャンネル LPCM 信号には、SFC は使用できません。
- PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超えるソースには、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。入力されると自動的に解除されます。その後、他のソースを再生して効果を使用するには、再び [SFC 音楽 、映画] や [PL Ⅱ] を押して選んでください。
- SFC の“***GAME***”モード（➔ 上記）は、リモコンの [ゲーム] を押すことでも選べます。（ ➔ 26 ページ）
- ドルビーデジタルや DTS などのサラウンド信号やマルチチャンネル LPCM 信号には、ドルビープロロジックⅡは使用できません。

ビエラリンク（HDMI）を使う

ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは

●本システムと HDMI ケーブル（別売品）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン 1 つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
※すべての操作ができるものではありません。

●ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。

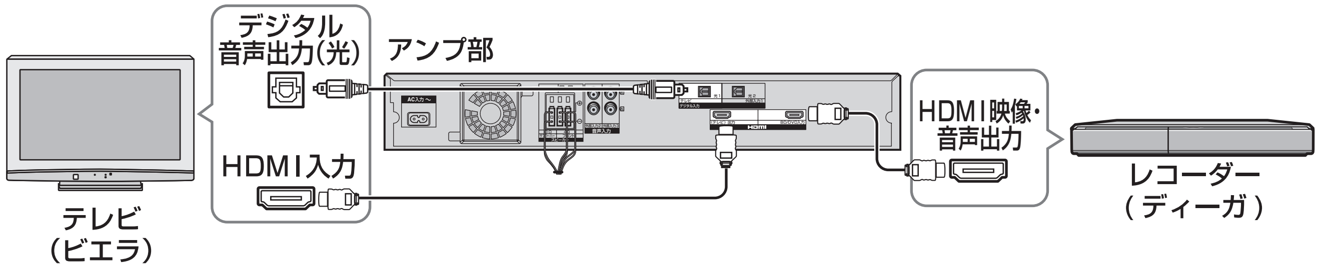
●ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。

●本システムはビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応しています。
ビエラリンク（HDMI）Ver.3 とは、従来の当社製ビエラリンク（HDMI）機器にも対応した当社基準です。（2007 年 12 月現在）

接続

本システムとビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を HDMI ケーブルで接続します。

- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
  品番 : RP-CDHG10 (1.0 m)、RP-CDHG15 (1.5 m)、RP-CDHG20 (2.0 m)、RP-CDHG30 (3.0 m) など
- HDMI ケーブルの接続だけでは、本システムでテレビの音声を楽しむことができません。本システムでテレビの音声を楽しむ場合は、本システムとテレビを光デジタルケーブルで接続してください。



設定

① 本システムの「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」で“***ON***”（連動するとき）に設定されているか確認をする。（“***OFF***” になっている場合は、“***ON***” にしてください。）（➔ 25 ページ）
② 接続した機器側（テレビなど）で、ビエラリンク（HDMI）が働くように設定する
③ すべての機器の電源を入れる
④ 一度テレビ（ビエラ）の電源を「切」にしたあと、再びテレビ（ビエラ）の電源を「入」にする
⑤ テレビ（ビエラ）の入力を、本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える
⑥ 本システムの入力を “***BD/DVD***” に切り換えて、レコーダー（ディーガ）の画像が正しく映るかを確認する
（接続や設定を変更した場合にも、この操作をしてください。）

ビエラリンク（HDMI）Q & A

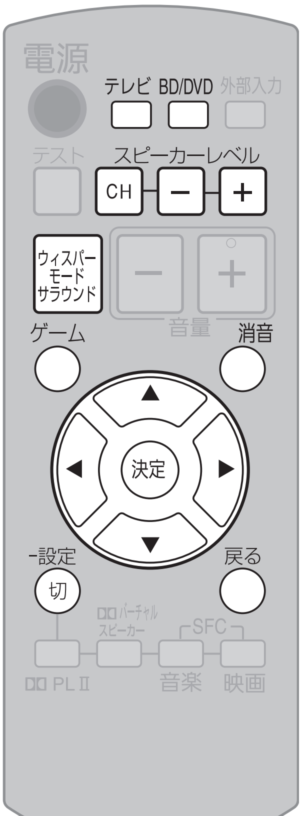
Q（質問）	A（回答）
お使いのテレビやレコーダーがビエラリンク（HDMI）対応かわからないときは？	接続した機器にビエラリンク（HDMI）のロゴマーク（**➔ 下記**）が付いているかお確かめになるか、それぞれの取扱説明書をご覧ください。 VIERA Link
ビエラリンク（HDMI）が働かなくなったときは？	● 「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」（➔ 25 ページ）で “***ON***”（連動するとき）に設定しているか確認してください。 “***OFF***” になっている場合は、“***ON***” に変更してください。 ● 省待機電力モードにしている場合、本システムの電源「切」時には、ビエラリンク（HDMI）が働きません。「本システムの電源「切」時の消費電力を下げる」（➔ 28 ページ）で “***ON***”（通常の消費電力）に変更してください。 ● 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。 ● HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 • HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 • テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク（HDMI）制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） • テレビ（ビエラ）と本システムを HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直す。

ビエラリンク（HDMI）の動作

<table>
<tr><td rowspan="5">テレビ（ビエラ）のリモコンで本システムの操作をする

テレビ（ビエラ）の操作は、テレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。</td><td>自動的に本システムの電源を切る</td><td colspan="2">テレビ（ビエラ）のリモコンで、テレビ（ビエラ）の電源を切ると、自動的に本システムの電源も切れます。
ビエラリンク（HDMI）に対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。</td></tr>
<tr><td>本システムのスピーカーからレコーダー（ディーガ）やテレビ（ビエラ）の音声を出力する</td><td colspan="2">テレビ（ビエラ）のリモコンで、音声を AV アンプから出す設定にする
例）テレビの [ビエラリンク] ボタンを押し、「音声を AV アンプから出す」を選ぶ
● テレビによって、音声を AV アンプから出す操作や画面は異なります。
● 本システムの電源が「切」のときは、自動的に本システムの電源も入ります。
● CD、DVD や録画したテレビ番組の始まりが途切れるような場合には、レコーダー（ディーガ）のリモコンで［⏮ スキップ］を押して、初めから再生してください。</td></tr>
<tr><td>テレビ（ビエラ）の音声を楽しむ</td><td colspan="2">テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本システムの入力が“TV”に切り換わります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">サウンドを切り換える
ビエラリンク（HDMI）Ver.2/ビエラリンク（HDMI）Ver.3 対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせのみ</td><td colspan="2">テレビ（ビエラ）のリモコンで、サウンドを切り換える操作をする
例）[サウンド] ボタンを押す
● テレビによって、操作は異なります。
● モード切り換え時、本システムの表示部に“SOUND LINK”と表示されます。
● 入力ソースが 48 kHz を超えるサンプリング周波数の PCM のときは、この機能は使えません。</td></tr>
<tr><td>番組情報などに応じて、自動的にサウンドを切り換える（オートサウンド連携）
ビエラリンク（HDMI）Ver.3 の当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の組み合わせのみ</td><td>テレビ（ビエラ）のリモコンで、自動的にサウンドを選ぶ設定にする
例）[サウンド] ボタンを押し、“オート”を選ぶ
● テレビによって、操作は異なります。
● 自動で設定をしない場合は、“オート”以外のサウンドを選んでください。
● 番組情報などを受け取り、サウンドが変更された場合は、本システムの表示部に“SOUND LINK”と表示されます。
● すべての番組情報などには対応していません。対応していない場合には、スタンダードモード（ドルビーバーチャルスピーカー再生）になります。
以下のような場合に働きます。
■テレビ（ビエラ）で：デジタル放送の番組を視聴中
■レコーダー（ディーガ）で：
デジタル放送の番組を視聴中、または再生中
DVD、CD、SD などを再生中
● 録画したディスクによっては、対応していない場合があります。
● 自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。
● 詳しくは、レコーダー（ディーガ）の取扱説明書をご覧ください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">自動的に入力を“BD/DVD”に切り換える</td><td colspan="2">● BD/DVD 端子に接続したレコーダー（ディーガ）を再生すると、本システムの入力が自動で“BD/DVD”に切り換わります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">テレビ（ビエラ）に接続した機器の音声を楽しむ</td><td colspan="2">● テレビ（ビエラ）の HDMI 入力に接続したビエラリンク（HDMI）対応機器を操作すると、本システムの入力が“TV”に切り換わります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">自動的に音声を遅らせて映像とのズレを補正する設定にする（オートリップシンク）
ビエラリンク（HDMI）Ver.3 対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせでのみ</td><td colspan="2">映像が音声よりも遅れている場合に、自動的に音声に遅延をかけ、映像に近づけます。
1. [− 設定、切] を約 2 秒間押したままにする
2. [◀] [▶] を押して“TV DELAY”を選び、[決定] を押して決定する
3. [▲] [▼] を押して“AUTO”を選び、[決定] を押して決定する
4. [戻る] を数回押して“EXIT”を選び、[決定] を押して設定を終える
● 手動で設定する場合は、「音声を遅らせて映像とのズレを補整する」（➜ 28 ページ）で“AUTO”以外の設定にしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする</td><td colspan="2">1. [− 設定、切] を約 2 秒間押したままにする
2. [◀] [▶] を押して“HDMI”を選び、[決定] を押して決定する
3. [◀] [▶] を押して“CTRL”を選び、[決定] を押して決定する
4. [▲] [▼] を押して“OFF”を選び、[決定] を押して決定する
OFF：連動しないとき、ON：連動するとき（初期設定）
5. [戻る] を数回押して“EXIT”を選び、[決定] を押して設定を終える</td></tr>
</table>

便利な機能・設定



ウィスパーモードサラウンドを使用する

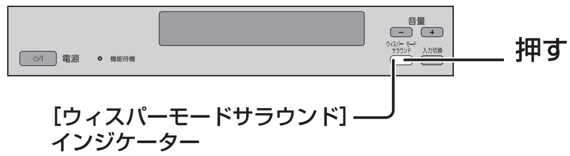
小音量時でも、臨場感のあるサラウンド効果が楽しめます。

［ウィスパーモードサラウンド］押す　W.S. ON

■ **解除する**　もう一度押す
解除すると、“**W.S.OFF**”と表示されます。

本体でも設定できます

操作部



● この機能が「入」のときは、操作部の［ウィスパーモードサラウンド］インジケーターが点灯します。

お知らせ

- ウィスパーモードサラウンドは、下記の場合には使用できません。
  ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用していない場合：
  　ドルビーバーチャルスピーカーが「切」のとき
  ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用している場合：
  　2 チャンネルソース入力でドルビープロロジックⅡ、SFC が「切」のとき
  この機能が「入」の場合に上記の設定にしたときは、［ウィスパーモードサラウンド］インジケーターが消えて、一時的に機能が「切」の状態になります。

ゲームサウンドを使用する

迫力のあるサウンドでゲームが楽しめます。

［ゲーム］押す　GAME

● SFC の“**GAME**”モード（➜ 22、23 ページ）が選択されます。

■ **解除する**　もう一度押す
解除すると、SFC の効果自体も解除されます。

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“**MUTING IS ON**”とくり返し表示（スクロール）されます。

［消音］押す　MUTING IS ON

■ **解除する**　もう一度押す

● 電源を切ると解除されます。
● 音量を調整すると解除されます。

スピーカーの音量をお好みに応じて調整する

再生するソースによっては、サブウーハーなどの音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもスピーカーの音量調整ができます。

1 ［CH］**押して、調整するスピーカーを選ぶ**
（スピーカーは、押すごとに切り換わります。）

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用していない場合
SUBW（サブウーハー）

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合
（➜ 18 ページ）

SUBW（サブウーハー）→ **RS**（ワイヤレスサラウンド右）→ **LS**（ワイヤレスサラウンド左）

2 スピーカーレベル［−］［＋］**押して、各スピーカーの音量を調整する**

調整範囲：***SUBW:***　***OFF、MIN、1 〜 19、MAX***
RS, LS:　***− 10 〜＋ 10***

お知らせ

- フロントスピーカーの音量バランスは、「音量バランスの調整をする」（➜ 右ページ）をご覧ください。
- サブウーハーの調整で ***“OFF”*** を選ぶと、サブウーハーから音が出ません。
- 音がひずむ場合は、レベルを下げてください。
- 音声が出力されない設定にしているスピーカーのレベル調整はできません。（➜ 22、23 ページ）
- SFC は各モードごとに調整できます。（➜ 22、23 ページ）

音質の調整をする

BASS（低音）と TREBLE（高音）を調整できます。

アナログ、PCM の 2 チャンネル信号をステレオ再生するときのみ有効です。<u>それ以外の条件では、この設定は表示されません。必ず、上記の条件にしてから、設定してください。</u>

1 －設定（切） 約 2 秒間押したままにする

2 ◀ ▶ 押して “**BASS**” または “**TREBLE**” を選び　BASS 0　TREBLE 0　➡ （決定）押して決定

※**BASS**、※**TREBLE**、**BALANCE**、※**DISTANCE**、**HDMI**、**TV DELAY**、**DUAL PRG**、**DRCOMP**、**ATTENUATOR**、**REMOTE**、**INPUT MODE**、**RESET**、**EXIT**

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “**EXIT**” を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲ ▼ 押して調整する　BASS 0　TREBLE 0　➡ （決定）押して決定

調整範囲：**−6** ～ **+6**
初期設定：**0**

4 （戻る） 数回押して “**EXIT**” を選び　EXIT　➡ （決定）押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする （戻る） 押す

音量バランスの調整をする

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。
L：フロントスピーカー（左）
R：フロントスピーカー（右）

1 －設定（切） 約 2 秒間押したままにする

2 ◀ ▶ 押して “**BALANCE**” を選び　BALANCE　➡ （決定） 押して決定

※**BASS**、※**TREBLE**、**BALANCE**、※**DISTANCE**、**HDMI**、**TV DELAY**、**DUAL PRG**、**DRCOMP**、**ATTENUATOR**、**REMOTE**、**INPUT MODE**、**RESET**、**EXIT**

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “**EXIT**” を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ◀ ▶ 押して調整する　L　R　➡ （決定） 押して決定

バーの表示は目安です。

4 （戻る） 数回押して “**EXIT**” を選び　EXIT　➡ （決定） 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする （戻る） 押す

距離の設定をする

● SH-FX60 で、ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続している場合に設定できます。（➔ 18 ページ）それ以外の場合は、この設定は表示されません。
● フロント / サラウンドスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1 －設定（切） 約 2 秒間押したままにする

2 ◀ ▶ 押して “**DISTANCE**” を選び　DISTANCE　➡ （決定） 押して決定

※**BASS**、※**TREBLE**、**BALANCE**、※**DISTANCE**、**HDMI**、**TV DELAY**、**DUAL PRG**、**DRCOMP**、**ATTENUATOR**、**REMOTE**、**INPUT MODE**、**RESET**、**EXIT**

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “**EXIT**” を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ◀ ▶ 押して設定するスピーカーを選び　FRONT 3.0m　➡ （決定） 押して決定

FRONT（フロントスピーカー）、
SURR（サラウンドスピーカー）

4 ▲ ▼ 押して距離を選び　FRONT 3.0m　➡ （決定） 押して決定

設定値　：***1.0*** ～ ***10.0*** m
初期設定：フロント　***3.0*** m
　　　　　サラウンド ***1.5*** m

5 （戻る） 数回押して “**EXIT**” を選び　EXIT　➡ （決定） 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする （戻る） 押す

便利な機能・設定（つづき）

本システムの電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）

このモードではHDMI接続をしている場合、スタンバイスルー機能（➜21、34ページ）は働きません。
電源「切」時のビエラリンク（HDMI）（➜24、25ページ）は無効になります。

1 -設定 切 約2秒間押したままにする

2 ◀▶ 押して“HDMI”を選び　HDMI → 決定 押して決定

※BASS、※TREBLE、BALANCE、※DISTANCE、HDMI、TV DELAY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT
※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “EXIT”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ◀▶ 押して“STNBY”を選び　STNBY ON → 決定 押して決定

STNBY、CTRL

4 ▲▼ 押して“OFF”を選び　STNBY OFF → 決定 押して決定

OFF：電源「切」時の消費電力を下げる（約0.2 W）
ON：電源「切」時に「スタンバイスルー」を有効にする（通常の消費電力）

初期設定：ON

5 戻る 数回押して“EXIT”を選び　EXIT → 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする　戻る　押す

音声を遅らせて映像とのズレを補正する

映像が音声よりも遅れている場合に、音声を遅らせて、映像に近づけます。

1 -設定 切 約2秒間押したままにする

2 ◀▶ 押して“TV DELAY”を選び　TV DELAY → 決定 押して決定

※BASS、※TREBLE、BALANCE、※DISTANCE、HDMI、TV DELAY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT
※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “EXIT”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲▼ 押して設定を選び　40 → 決定 押して決定

AUTO、OFF、10、20、30、40

初期設定：AUTO

4 戻る 数回押して“EXIT”を選び　EXIT → 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする　戻る　押す

● ブラウン管テレビなど、音声を遅らせる必要がない場合は、“OFF”を選んでください。
● “AUTO”はビエラリンク（HDMI）Ver.3に対応の当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合のみ有効です。（➜25ページ）
● ビエラリンク（HDMI）Ver.3に対応していない当社製テレビ（ビエラ）、もしくは当社以外のテレビを接続している場合で“AUTO”にしているときは、“40”（msec）として設定されます。

二重音声を切り換える

AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声を切り換えることができます。

1 -設定 切 約2秒間押したままにする

2 ◀▶ 押して“DUAL PRG”を選び　DUAL PRG → 決定

※BASS、※TREBLE、BALANCE、※DISTANCE、HDMI、TV DELAY、DUAL PRG、DRCOMP、ATTENUATOR、REMOTE、INPUT MODE、RESET、EXIT
※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “EXIT”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲▼ 押して音声を選び　DUAL MAIN → 決定

MAIN（主音声）、SUB（副音声）、M+S（主＋副音声）

初期設定：MAIN

4 戻る 数回押して“EXIT”を選び　EXIT → 決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする　戻る　押す

小音量でも聞きやすくする

ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1 -設定 切 約２秒間押したままにする

2 ◀▶ 押して“**DRCOMP**”を選び　DRCOMP　➡ 決定 押して決定

※**BASS**、※**TREBLE**、**BALANCE**、※**DISTANCE**、**HDMI**、**TV DELAY**、**DUAL PRG**、**DRCOMP**、**ATTENUATOR**、**REMOTE**、**INPUT MODE**、**RESET**、**EXIT**

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “**EXIT**”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲▼ 押して設定を選び　STANDARD　➡ 決定 押して決定

OFF：通常の再生　**STANDARD**：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

初期設定：**OFF**

4 戻る 数回押して“**EXIT**”を選び　EXIT　➡ 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする 戻る 押す

アッテネーターを切り換える

アナログ入力で再生中、音が大きな時にひずんだように聞こえる場合は“**ON**（入）”にしてみてください。

1 -設定 切 約２秒間押したままにする

2 ◀▶ 押して“**ATTENUATOR**”を選び　ATTENUATOR　➡ 決定 押して決定

※**BASS**、※**TREBLE**、**BALANCE**、※**DISTANCE**、**HDMI**、**TV DELAY**、**DUAL PRG**、**DRCOMP**、**ATTENUATOR**、**REMOTE**、**INPUT MODE**、**RESET**、**EXIT**

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “**EXIT**”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ▲▼ 押して“**ON**”を選び　ON　➡ 決定 押して決定

ON（入）、**OFF**（切）　初期設定：**OFF**

4 戻る 数回押して“**EXIT**”を選び　EXIT　➡ 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする 戻る 押す

入力信号の判別方法を切り換える

“**AUTO**”（購入時の設定）でほとんどの場合問題なく再生できますが、以下のような場合には、入力信号の判別方法を切り換えてください。
- CD を再生して、曲の始まりが途切れる場合は、“**PCM**”（PCM FIX）に設定してください。
- DTS ソースを再生しても、信号が判別されない場合は、“**DTS**”（DTS FIX）に設定してください。

ノイズが発生する場合は、“**AUTO**”に戻してください。

1 -設定 切 約２秒間押したままにする

2 ◀▶ 押して“**INPUT MODE**”を選び　INPUT MODE　➡ 決定 押して決定

※**BASS**、※**TREBLE**、**BALANCE**、※**DISTANCE**、**HDMI**、**TV DELAY**、**DUAL PRG**、**DRCOMP**、**ATTENUATOR**、**REMOTE**、**INPUT MODE**、**RESET**、**EXIT**

※調整が有効な場合のみ表示されます。

● “**EXIT**”を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 ◀▶ 押して入力を選び　TV AUTO　➡ 決定 押して決定

TV、**DVD**、**AUX1**

4 ▲▼ 押して入力信号の判別方法を選び　TV AUTO　➡ 決定 押して決定

AUTO：自動判別
PCM：PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定
DTS：DTS のデジタルに固定

初期設定：**AUTO**

■手順３と４を繰り返し、設定を変更

5 戻る 数回押して“**EXIT**”を選び　EXIT　➡ 決定 押して決定

■ 設定動作中：一つ前に戻る／キャンセルする 戻る 押す

便利な機能・設定（つづき）

購入時の設定に戻す（リセット）

本システムの設定を購入時の状態に戻します。

1 [-設定 切] 約 2 秒間押したままにする

2 [◀][▶] 押して "*RESET*"を選び　>RESET<　➡ [決定] 押して決定

※*BASS*、※*TREBLE*、*BALANCE*、※*DISTANCE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

※調整が有効な場合のみ表示されます。

- "*EXIT*"を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 [▲][▼] 押して "*YES*"を選び　RESET >YES<　➡ [決定] 押して決定

YES、*NO*

- "*YES*"を選ぶと、すべての設定がリセットされ、自動的に入力が "*BD/DVD*" になります。
- "*NO*"を選ぶと、手順 2 に戻ります。設定モードを終了させるには、[戻る] を数回押して "*EXIT*" を表示させ、[決定] を押してください。

他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合

本システムのリモコンを使用すると他の機器が動作することがあります。その場合は、本システムのリモコンコードを "*REMOTE 1*" に切り換えてください。下記の操作で、<u>本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します。</u>

1 [-設定 切] 約 2 秒間押したままにする

2 [◀][▶] 押して "*REMOTE*"を選び　>REMOTE<　➡ [決定] 押して決定

※*BASS*、※*TREBLE*、*BALANCE*、※*DISTANCE*、*HDMI*、*TV DELAY*、*DUAL PRG*、*DRCOMP*、*ATTENUATOR*、*REMOTE*、*INPUT MODE*、*RESET*、*EXIT*

※調整が有効な場合のみ表示されます。

- "*EXIT*"を選んで決定すると、設定モードを終了します。

3 [▲][▼] 押して番号を選び　REMOTE >1<　➡ [決定] 押して決定

1、*2*　初期設定：*2*

- 本体側のリモコンコードが設定されます。
- リモコン側の設定を変更するまでは、設定モードを終了することはできません。そのまま、手順 4 に進んでください。

4 [決定] 押したまま [テレビ] または [BD/DVD] を押す（2 秒以上）

テレビ：　リモコンコード 1
BD/DVD：リモコンコード 2（初期設定）

- リモコン側のリモコンコードが設定されます。
- 手順 3 で選んだコード番号と同じ番号を選んでください。

5 [戻る] 数回押して、"*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終える

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本システムには接続できません。
長時間使用すると、本システムが熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、後面の排気孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本システムは CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。（➜ 13 ページ）
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	別売の SH-FX60 を使用して、ワイヤレス接続ができます。（➜ 18 ページ）
他のアンプやスピーカーを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
U30 REM2 U30 REM1	● リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。 “***U30 REM2***” が表示された場合、「他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合」の手順 **4** でリモコン側設定を “***2***” にしてください。 “***U30 REM1***” が表示された場合も、同じように手順 **4** で、リモコン側設定を “***1***” にしてください。	30
U70-1-1	● HDMI 接続した機器が、本システムの著作権保護に対応していません。	–
U70-1-2	● HDMI 接続で、本システムが対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	–
U70-3	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 －接続した機器の電源を「切 / 入」してください。 － HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 －本システム出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	 – – –
NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE （スクロール表示）	● 二重音声には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。	28
NOT POSSIBLE FOR THIS PCM SOURCE （スクロール表示）	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。 ● マルチチャンネル LPCM 信号には、SFC は使用できません。	22、23 22、23

仕様

■ アンプ部

実用最大出力
- **フロント（L/R）** 65 W + 65 W（4 Ω、JEITA）
- **サブウーハー** 90 W（100 Hz、3 Ω、JEITA）

負荷インピーダンス
- **フロント（L/R）** 4 Ω
- **サブウーハー** 3 Ω

入力感度 / 入力インピーダンス
- **外部入力 2、外部入力 3** 450 mV/47 kΩ

信号対雑音比（S/N 比）
- **BD/DVD、テレビ、外部入力 1** 80 dB

トーンコントロール特性
- **低音** 50 Hz、+6 ～－ 6 dB
- **高音** 20 kHz、+6 ～－ 6 dB

デジタル入力	**（光）**	2
HDMI	**（入力）**	1
	（出力）	1

本システムは、ビエラリンク（HDMI）Ver.3 に対応しています。

■ ラックシステム部

寸法（幅×高さ×奥行き） 850 mm × 441 mm × 388 mm
質量 約 32.5 kg
耐荷重量 80 kg

■ スピーカーシステム部

フロントスピーカー部
1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）
6.5 cm コーン型フルレンジ× 1

サブウーハー部
1 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）
13 cm コーン型ウーハー× 2

■ 総合

電源 AC 100 V、50/60 Hz
消費電力（本体） 105 W

電源スタンバイ時の消費電力	**約 0.6 W**
省待機電力モード時の消費電力	**約 0.2 W**

■ 動作使用条件

周囲温度 0℃～ 40℃
相対湿度 20℃～ 80℃（結露なきこと）

注）
この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

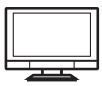
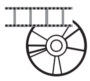
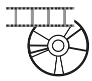
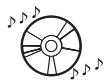
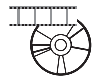
故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	17
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力ソースを正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本システムで再生できるデジタル信号か確認してください。 光デジタルケーブルで接続した場合、サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM 信号は、正常に再生されません。 ● 機器が正しく接続されているか確認してください。 ● 別売の SH-FX60 を使用している場合は、デジタルトランシーバーとサラウンドスピーカーの接続を確認してください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で“***AUTO***”に設定してください。 ● 本システムの電源を「切 / 入」してください。	20、21 26 33 13 ～ 17 18 29 –
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	7
	電源を切っても機能待機ランプが点灯する。	● コンセントに電源コードを接続すると、電源「切」のときに [機能待機] ランプが点灯します。なお、電源「入」にすると消灯します。	17
	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本システムをデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。外部入力 2 または外部入力 3 にアナログ接続してください。	14、17
	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確かめてください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で“***DTS***”に設定してください。	– 29
	DVD オーディオを再生しても音が出ない。	● 光デジタルケーブルで接続した場合、著作権保護の理由などで音声が出ないディスクがあります。また、48 kHz を超えるサンプリング周波数の音声も再生されないことがあります。	–
	音が出なくなった。 (“***F61***”が約 1 秒間表示される。) 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ● カーテンや異物により、排気孔をふさいでいませんか。 ⇒ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。 (保護回路の動作が解除されます。) (それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。)	– – –
	“***F70*** □□□□”が表示される。 (□には“***DSP***”または“***HDMI***”が表示されます。)	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
	“***F76***”が表示される。 (表示したあと、電源が切れます。)	● 電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
音場効果	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡ を選択してください。	22、23
	ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡ が使えない。	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは使用できません。外部入力 2 または外部入力 3 にアナログ接続してください。 ● BS デジタル放送の AAC 信号とドルビーデジタルの二重音声には使用できません。	14、17 –
	BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ①ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーなどのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。 ②「入力信号の判別方法を切り換える」で“***PCM***”に設定してください。	– 29
	正常に動作しない。	● HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	13

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
HDMI	ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。	●「ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にする」で“***ON*** ”（連動するとき）に設定しているか確認してください。 “***OFF***”になっている場合は、“***ON***”に変更してください。 ● 省待機電力モードにしている場合、本システムの電源「切」時には、ビエラリンク（HDMI）が働きません。「本システムの電源「切」時の消費電力を下げる」で“***ON***”（通常の消費電力）に変更してください。 ● 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。 ● HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 ・HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 ・テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク（HDMI）制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） ・テレビ（ビエラ）と本システムを HDMI ケーブルで接続して、テレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直す。	25 28 – –

本システムで再生できるデジタル信号

AAC	ドルビーデジタル	DTS	PCM（2 チャンネル）	マルチチャンネル LPCM（リニア PCM）
BS デジタル放送など 	DVD など 	DVD など 	CD や DVD オーディオなど  （サンプリング周波数が 96 kHz までの信号）	ブルーレイディスクや DVD オーディオなど  （サンプリング周波数が 48 kHz までの信号）

お知らせ

● HDMI 接続をしている場合は、以下の信号も再生することが可能です。（➜ 13、24 ページ）
- サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM 信号
- サンプリング周波数が 48 kHz を超えるマルチチャンネル LPCM 信号

※接続している再生機器により、再生される状態が異なります。（対応していない場合、再生できないこともあります。）
詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

● 各信号について詳しくは「用語解説」（➜ 34 ページ）をご覧ください。

用語解説

アナログ
一般的な再生機器に装備されている左（L）/ 右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

サラウンド信号
フロント、センター、サラウンドチャンネルで構成された音声信号です。本システムでは、サラウンド信号は自動的にドルビーバーチャルスピーカーで再生します。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

スタンバイスルー機能
本システムとテレビ、レコーダーを HDMI ケーブルで接続すると、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送される機能です。
深夜の視聴など、テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。
x.v. Color で記録された映像にも対応しています。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、CD プレーヤーなどに装備されています。ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聴くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に光（OPTICAL）端子がある場合に使用できます。

AAC 信号
ＢＳデジタル放送や地上波デジタル放送に採用されている圧縮音声です。サラウンド音声を再生できます。

CPPM
Content Protection for Prerecorded Media（コンテント プロテクション フォー プリレコーディッド メディア）の略。
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）（DVD など）
ドルビー研究所によって開発されたデジタルサラウンドシステムです。

Dolby Pro Logic Ⅱ（ドルビー プロ ロジック）
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネル で記録されたあらゆるソースを、よりリアルな音場で 5.1 チャンネル 音声に変換します。従来の 2 チャンネル 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネル の迫力ある音声で楽しめます。本システムでは、ビデオや CD などのステレオソースにサラウンド効果をつけるときに使用されます。

Dolby Virtual Speaker（ドルビー バーチャル スピーカー）
フロントスピーカー、サブウーハーだけで、サラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 チャンネルにおける理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

DTS（DVD など）
DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。

HDMI
HDMI は High-Definition Multimedia Interface（ハイ デフィニション マルチメディア インターフェイス）の略です。
１本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。

LPCM（エルピーシーエム）（リニア PCM（ピーシーエム））
PCM 方式の一種で、圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。音楽 CD などで使われている方式です。また、ブルーレイディスクや DVD オーディオなどでは、マルチチャンネルの LPCM が使われており、より高音質な再生が可能です。本システムでは、7.1 チャンネルまでの LPCM を入力することができます。さらに、別売の SH-FX60 を接続すれば、7.1 チャンネルをより広がりのある音場効果で楽しめます。

PCM（ピーシーエム）（Pulse Code Modulation（パルス コード モジュレーション））
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式の１つです。

x.v.Color
広色域色空間の国際標準規格「xvYCC」に準拠した製品の名称です。本システムは、x.v.Color に対応しています。

1080p
デジタルハイビジョン映像の 1 つです。
実際の画面を構成する有効走査線数は 1080 本で、細部まできれいに表現されます。また、上から順に走査するプログレッシブ方式で、ちらつきの少ない画像になります。
本システムは、1080p に対応しています。

5.1 チャンネル サラウンド
「モノラル」は 1 つのスピーカーで、「ステレオ」は 2 つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1 チャンネルサラウンドでは 5 つのスピーカーと 1 つのサブウーハーが使われます。視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5 チャンネル、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため 0.1 とし、すべてを使って再生することを 5.1 チャンネルサラウンド再生と言います。本システムでは、ドルビーバーチャルスピーカーで、5.1 チャンネル で聞いているような音響効果を楽しむことができます。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**（下記は絵表示の一例です）

（注意喚起の絵表示）	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
（禁止の絵表示）	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
（強制の絵表示）	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

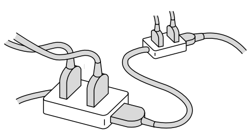
⚠ 警告

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない



たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

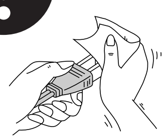
異常があったときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- 内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- 落下などで外装ケースが破損したとき
- 煙や異臭、異音が出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる



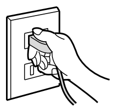
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ･ゆるんだコンセントは、使わないでください。

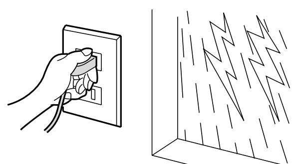
分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止



感電の原因になります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

電池は誤った使いかたをしない

- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕ と ⊖ を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない
- ⊕ と ⊖ を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。

- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

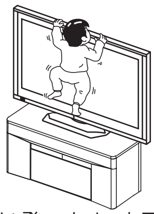
- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

回転式テレビスタンド使用時は、ラック天面よりテレビスタンドがはみ出さないように設置し、回転範囲内に手や物を置かない

落下や指をはさんでけがの原因となることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

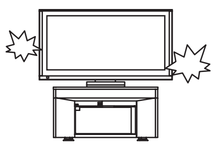
テレビは転倒防止の処置をする



地震やお子様がよじ登ったりすると、転倒しけがの原因となることがあります。

- 安全のため、必ずキャスター座を取り付け、転倒防止バンドでテレビとラックを固定してください。
- テレビは、壁にも固定してください。

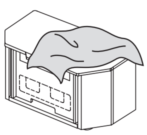
設置したテレビがはみ出した場合、当たらないように注意する



倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

⚠ 注意

放熱を妨げない



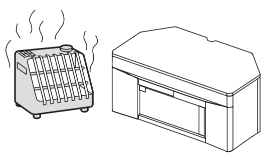
内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になることがあります。

- 後面の排気孔をふさがないでください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない



外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

スピーカーは内蔵のものを使用する

内蔵以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

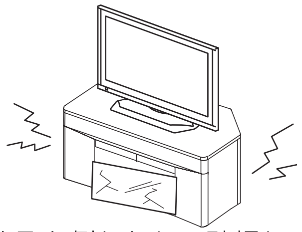
本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

⚠ 注意

キャスター（車）には注油しない

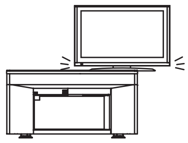
キャスター（車）のひび割れ、破損の原因となり、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

万一、ラックやガラスに変形・ひび割れ・割れが起こった場合は、使用しない



そのまま使用すると倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。
- すぐに販売店へご連絡ください。

テレビは、片寄った載せかたをしない



倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

ラックの設置時や扉の開閉時には、指をはさまないように注意する

指に注意

けがの原因になることがあります。
- 扉の開閉はゆっくりとしてください。

キャスター付きラックを移動するときは、キャスター座を取り外す

キャスター座を取り付けたまま移動すると、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。
- 段差のあるところやじゅうたんなどの柔らかいところでは、特にご注意ください。
- キャスター座の取り外しは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックの移動や設置時に、ラック下部の隙間内に足先を入れない

けがの原因となることがあります。

付属の成形ダボは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

ラックやガラス扉の上に乗ったり、座ったりしない

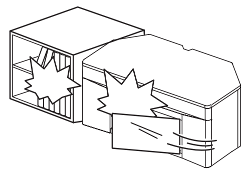


落ちたりして、けがの原因になることがあります。
- 特にお子様にはご注意ください。

長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

ガラスを傷つけたり、衝撃を与えない



ガラスは強化ガラスです。使い方を誤ると割れる恐れがあり、けがの原因となることがあります。
- 鋭利なものや、とがったものなどで傷をつけないでください。
- 強化処理をしたガラスは、傷が入った状態で長期間ご使用になりますと、傷が進行し自然に破損することがあります。
- 傷が入った場合は、販売店に相談して、新しいガラスと取り替えてください。

天板・棚板・底板には指定した質量以上の機器を載せない

ラックに載せられる質量を超えて長期間使用されますと破損してけがの原因となることがあります。
- 天板は 80 kg、棚板は各 12 kg、底板は 20 kg を超える機器を載せないでください。
- 天板には、テレビ以外の物を置かないでください。

不安定な場所に置かない

- **高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない**

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。

設置や移動、またはキャスター座の取り付けは2人以上で行う

1 人で無理に行うと、腰を痛めたり、けがの原因になることがあります。
- キャスター座の取り付けは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックを搬送したり、キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず指定された部分を持って行う

指定された部分以外を持って移動すると、けがの原因になることがあります。
- 持ち方については、必ず本文の説明に従って行ってください。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

32、33 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SC-HTR110	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

パナソニック 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

• 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック

修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北 海 道 地 区

地区	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東 北 地 区

地区	所在地	電話番号
青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市外旭川字小谷地3-1	☎(018)868-7008
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首 都 圏 地 区

地区	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5822
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東区東明1丁目8-14	☎(025)286-0180

中 部 地 区

地区	所在地	電話番号
石川	金沢市横川3丁目20	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)21-0622
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市葵区千代田7丁目7-5	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	☎(059)254-5520

近 畿 地 区

地区	所在地	電話番号
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)646-2123
大阪	大阪市城東区関目2丁目15-5	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4	☎(078)796-3140

中 国 地 区

地区	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音1丁目13-5	☎(082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	☎(083)973-2720

四 国 地 区

地区	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九 州 地 区

地区	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1919-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	天草市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	奄美市名瀬朝仁町11-2	☎(0997)53-5101

沖 縄 地 区

地区	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0608

さくいん

―このマークがある場合は―

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検 長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！

こんな症状はありませんか	▶	このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。
● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある		

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	電話（　　）　－	品番	SC-HTR110
お客様ご相談窓口	電話（　　）　－	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社　AVC ネットワークス社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT9120-MS

H0208RT4088